

取扱説明書

YPJ-EC

[ワイピージェイイーシー] 機種名: PW70ECL, PW70ECM, PW70ECS



前書き

このたびは、ヤマハ〈YPJ〉をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ヤマハ〈YPJ〉は電動補助システムを装備している自転車です。

お乗りいただく前に必ず本書をお読みいただき、本製品をご理解の上、ご使用ください。

また、『ヤマハ〈YPJ〉点検・整備の記録』、『お客様窓口のご案内』も併せてお読みください。

- この〈YPJ〉は一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。
- 納車時に販売店から、使用方法について十分に説明をお受けください。
- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。
- この〈YPJ〉を他の人にお譲りになる場合は、本書も一緒にお渡しください。
- 製品保証登録は、ご購入後7日以内にヤマハ発動機〈YPJ〉公式ページ「製品保証登録はこちら」よりご登録ください。インターネット環境がない場合は、製品保証登録票ハガキでも登録できます。

YPJ 保証登録

検索

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
 要点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。
	安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

はじめに

ヤマハ〈 YPJ 〉の特長

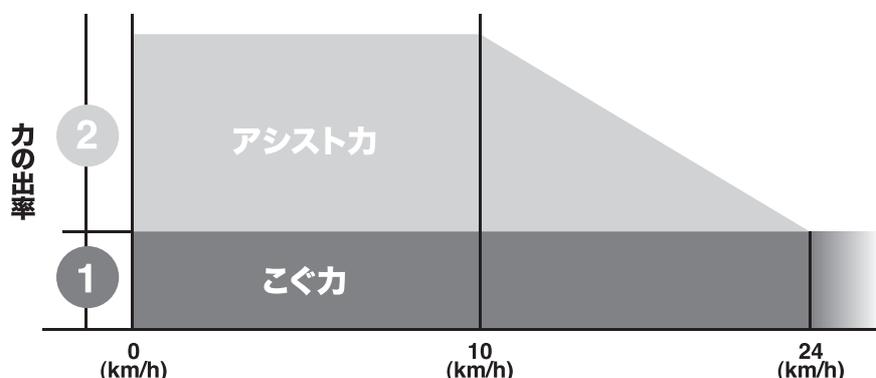
電動補助（パワーアシスト）システムにより最適なアシスト力が得られます

- ペダルを踏む力や走行速度などに応じて、基準の範囲内でアシストをします。
- 発進から時速 10km に達するまでは、ペダルを踏む力 “1” に対して最大で “2” の力でアシストすることができます。時速 10km を超えるとしだいにアシスト力を弱めていき、時速 24km でアシストをゼロにします。

要 点

ここでは、アシストの法令基準について説明しています。

YPJ のアシスト比を表しているものではありません。



こんなときは電動補助（パワーアシスト）システムが作動しません。

- システムの電源が切れているとき
- 時速 24km 以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- アシストオフモードのとき
- バッテリー残量がなくなったとき
- 自動電源オフ機能が作動したとき
- 走行することができなくなる故障や異常が発生したとき

5 種類の [走行モード] を装備しています

走行状況に合わせて、ハイモード、スタンダードモード、エコモード、プラスエコモード、アシストオフモードの 5 種類から [走行モード] を選べます。走行モードの切り替えかたは「**走行モード切替ボタン**」(27 ページ) をご参照ください。

ハイモード	急な坂道を登るときなど、より楽に走りたいときに適しています。
スタンダードモード	平坦な道や緩やかな坂道を登るときに適しています。
エコモード	できるだけ長い距離を走りたいときに適しています。
プラスエコモード	
アシストオフモード	普通の自転車として走りたいときに適しています。

トリプルセンサーシステムを採用しています

「トルクセンサー（ペダルを踏む力を検出）」と「スピードセンサー（走行速度を検出）」に加えて、「クランク回転センサー」でリアルタイムにペダル（クランク）を回す速さを検出し、自然な乗り心地を実現します。

自動電源オフ機能を備えています

コンパクトマルチファンクションメーターの電源が入った状態で停車したまま 5 分間以上ペダルに踏む力がかけられない場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。自動電源オフ機能が作動した後もコンパクトマルチファンクションメーターの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。

バッテリー残量が無くなっても普通の自転車として走行可能です

万一走行中にバッテリー残量が無くなっても、またバッテリーを取り外しても、普通の自転車として走行することができます。ただし、前照灯は点灯しませんので、夜間やトンネル内などの暗いところでは YPJ から降りて押して歩いてください。

もくじ

1章

1章 安全上のご注意	5
重要ラベルについて	5
YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を 防ぐために	6
YPJ ご使用中 けがを防ぐために	10
バッテリーの取り扱い中 感電や火災を防ぐために	14
充電器の取り扱い中 感電や火災を防ぐために	15
充電中 感電や火災を防ぐために	17
バッテリー・充電器の保管中 事故を防ぐために	18
自転車の交通ルールを守りましょう	19
お乗りになる前の調整	22

2章

2章 各部の名称	24
右側面	24
左側面	24
ハンドル周り	25
スイッチユニットとコンパクト マルチファンクションメーター	25

3章

3章 各部の取り扱いと操作	26
スイッチユニット	27
コンパクトマルチファンクション メーター	27
機能設定	34
BLE 機器との通信	38
自己診断機能による異常表示	39
コンパクトマルチファンクション メーターの角度調整	39
バッテリーロック	40
変速レバー	40
前照灯	42
ハンドルブラケット	42
クイックリリース	44

4章

4章 バッテリーの充電	47
YPJ のバッテリー	47
充電に適した環境	47
充電のしかた	48
充電時間	51
充電の確認	52

5章

5章 お乗りになる前に	54
乗車前点検	54
バッテリー残量の確認	62
充電あたりの走行できる距離	64
走行距離が短くなる環境や使いかた	65
荷物を積載するには	66

6章

6章 乗りましょう	67
発進のしかた	67
ブレーキのかけかた	67
降車のしかた	68

7章

7章 定期点検	69
初回点検（2 か月目点検）と 定期点検	69

8章

8章 お手入れと保管	70
お手入れのしかた	70
保管のしかた	72
長期保管（1 か月以上）と 長期保管後の再使用	74
コンパクトマルチファンクション メーター内蔵ボタン電池の 交換のしかた	74

9章

9章 もしもこんなときは	76
故障かな？と思ったら	76

10章

10章 ごぞんじですか？	82
バッテリーの特性	82
バッテリーの寿命と交換	82
保証制度	84
型式認定済 TS マーク	84
自転車保険加入の勧め	84
ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について	85
車両情報	87
廃棄するときは	88

11章

11章 製品仕様	89
仕様諸元	89

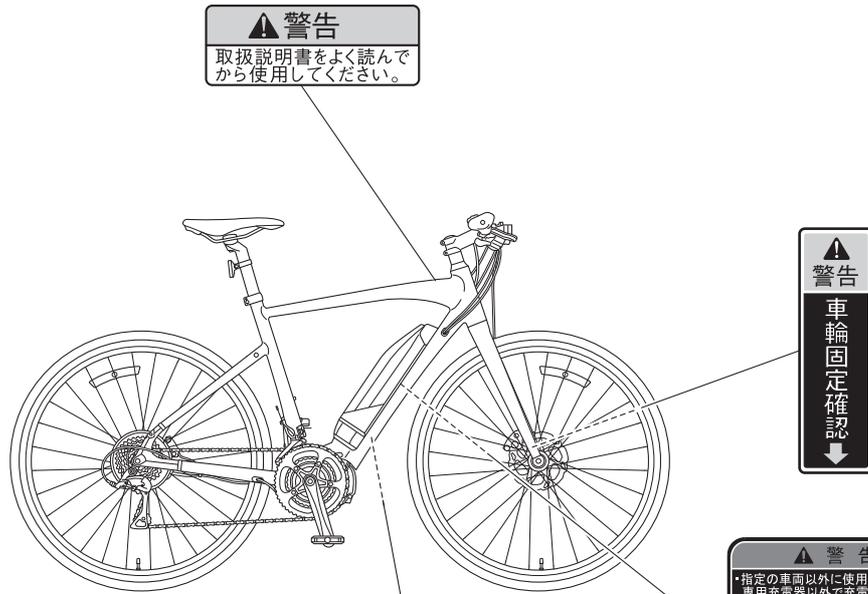
12章

12章 索引	92
---------------------	-----------

1 章 安全上のご注意

重要ラベルについて

「重要ラベル」は、以下の位置に貼付されています。車体や充電器などに貼付されている「重要ラベル」をよくお読みいただき、安全にご使用ください。



警告
取扱説明書をよく読んでから使用してください。

警告
車輪固定確認
↓

警告
装着とロックが不十分だとバッテリーが落下するおそれがあります。
装着後、バッテリーを手前に引いて、確実にロックされていることを確認してください。

警告
・指定の車両以外に使用したり、専用充電器以外で充電したりしない。
・分解や改造をしない。
・火に近づけたり、水浸させたり、端子をショートさせたりしない。
・落下させたり、衝撃を与えたりした電池は使用しない。
発熱、破裂、発火の原因になります。

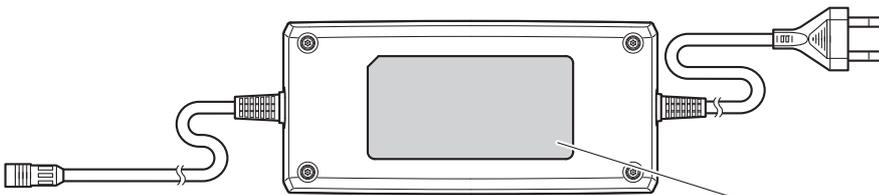
PS E ヤマハーターモトロニクス株式会社
定格 36V 13.2Ah

XON-10 Typ. 13.3Ah 500Wh*

この電池は変換式リチウムイオン電池です。使用済みの電池はお買い上げの販売店へご持参下さい。資源の有効活用とリサイクルの協力をお願いします。

XON-B2110-10 ASSEMBLED IN CHINA

* 輸送用表記



充電器 Model: X07-20
定格入力: AC100V 190VA
50 - 60Hz
定格出力: DC42V 4.0A

PS E UL Japan
ヤマハーターモトロニクス株式会社
4-688-266-03

警告
・使用前に必ず取り扱い説明書をお読みください
・家庭用コンセント (AC100V) 以外で使用しない
・燃えやすい物の近くで使用しない
・コードが損傷した物は使用しない
・水にぬらしたり、ぬれた手で触らない
・幼児やペットがいる場所に設置しない
・分解や改造をしない
・踏んだり、落としたり、衝撃をあてない
火災、感電、火傷の原因になります

MADE IN CHINA

1 章 安全上のご注意

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

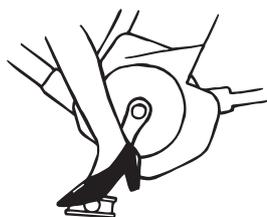
警告

安全な服装で乗車する

長いマフラー、すそが広いズボン、長いスカート、滑りやすい靴やかかとの高い靴などは避けてください。

車輪やチェーンへの巻き込みなどにより、転倒によるけがのおそれがあります。また、足がペダルから外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

- すそが広がっているズボンは、すそをバンドやゴムで留めてください。



電動アシスト自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所（自転車を取り入れても良い公園や広場など）で十分に練習する。転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 電動アシスト自転車に慣れるまでは「スタンダードモード」で走行してください。
- 周囲の安全確認をしてから練習してください。



乗車前点検は必ず実施する

取扱説明書をよくお読みいただき、必ず点検を実施してください。点検の結果、異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検をお受けください。異常のまま使用すると、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

また、わからないときは販売店にご相談ください。

夜間走行前には必ずバッテリーの残量を確認する

前照灯はバッテリーを電源としていますので、バッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなった場合、しばらくすると消灯します。消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

無灯火での走行は法令により禁止されています。

夜間走行中に前照灯が消灯した場合は、YPJから降りて押して歩いてください。

1 章 安全上のご注意

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

警告

けんけん乗り*をしない

転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

- 必ずサドルにまたがって、発進してください。

* けんけん乗りとは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかたです。



カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。



発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。

- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



片側だけのブレーキ操作はしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- ブレーキは必ず前後ともにかけてください。



停車中はペダルに足を乗せない

不用意なアシスト力がはたらき転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

- 停車中は前後のブレーキをかけてください。



急ハンドル、急ブレーキはしない

スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

1 章 安全上のご注意

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

警告

滑りやすいところでは乗らない

積雪や凍結した道、ぬれている鉄板やマンホール、点字ブロック、ぬかるみなどでは、スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

- YPJ から降りて、押して歩いてください。



かぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない

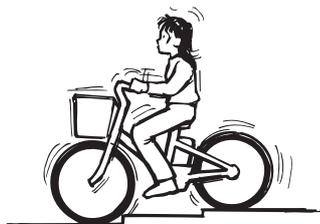
体調不良時は運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。



凹凸の激しいところを走らない（歩道の段差や、溝など）

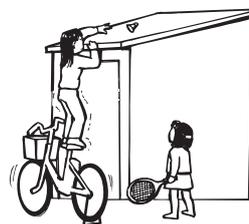
フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。

- YPJ から降りて、押して歩いてください。



踏み台代わりなど走行以外に使わない

転倒によるけがのおそれがあります。



乱暴な乗りかたはしない

アクロバットの的な乗りかたや急発進・急旋回をすると、転倒や落車などによるけがのおそれがあります。



YPJ が完全に止まってから降りる

YPJ が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

1章 安全上のご注意

YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を防ぐために

警告

手やハンドルに荷物や傘をかけたリ、ペットをつながない

荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。



スポークの間に物をはさんで走らない
車輪に巻き込まれるなどして転倒によるけがのおそれがあります。



傘やステッキ、釣り竿などを車体に差し込んだり、車輪の近くにつり下げて走らない

車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。



チャイルドシートを使用しても2人乗りをすることはできません

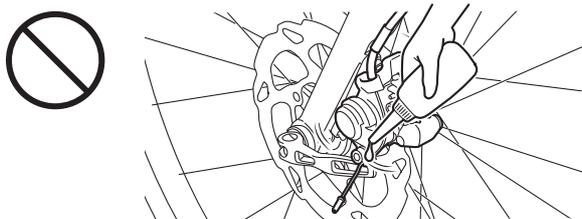
- このYPJは、チャイルドシート（別売アクセサリ品を含む）を使用して2人乗りができる設計をしていません。
- 別売アクセサリ品のリヤキャリアには、チャイルドシート（別売アクセサリ品を含む）を取り付けることができません。

1 章 安全上のご注意

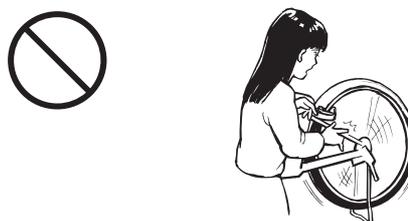
YPJ ご使用中 けがを防ぐために

警告

ブレーキの制動面などに注油しない
ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。



車輪・チェーンなどの回転部に手や足、物などを近づけない
また、子どもを近づけない
車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。



改造や分解はしない
部品が破損したり、外れたりして転倒によるけがのおそれがあります。



ハブステップなどの突起物を装着しない
歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。



純正部品を使用する
純正部品以外の取り付けは、事故や故障の原因になることがあります。
• 純正部品以外を使用すると保証の適応が受けられない場合があります。

1章 安全上のご注意

YPJ ご使用中 けがを防ぐために

警告

サドルの高さ調整をするときは、引き上げ限界線が見えない範囲で調整する

シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

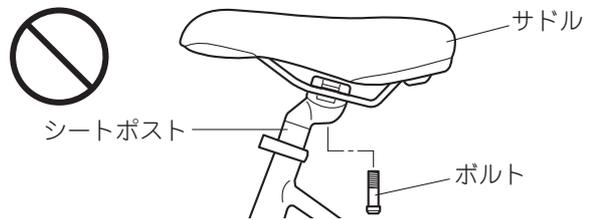
- シートバンドの締め付けボルトをゆるめ、サドルの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で調整してください。



サドルの位置調整はしない

サドルとシートポストを固定しているボルトは、適切な力で締め付けられています。ボルトがゆるむと、部品が破損したり、外れたりして転倒やけがをするおそれがあります。

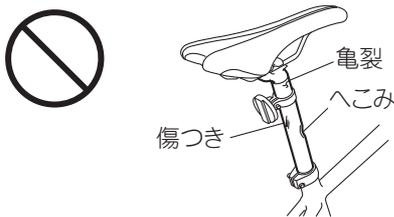
- サドルの位置調整が必要な場合は、販売店にご相談ください。



シートポストに傷つき、へこみ、または亀裂があるときは使用しない

シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- 異常がある場合は、販売店にご相談ください。



調整後はサドルが確実に固定されていることを確認する

サドルが確実に固定されていないと、安定した走行に支障をきたすことに加えて、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。



シートバンドの締め付けボルトを締め付けすぎない

指定の締め付けトルクを超えてボルトを締め付けると、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。

- ご自身での作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

1 章 安全上のご注意

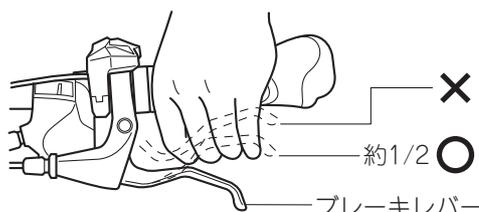
YPJ ご使用中 けがを防ぐために

警告

ブレーキが確実に作動するか点検する

ブレーキを使うたびにブレーキパッドは摩耗し、ブレーキワイヤーは伸びて、場合により調整を必要とします。ブレーキレバーを握ったときに、ブレーキレバーとグリップの間で調整状態を確認します。調整不良の場合はブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

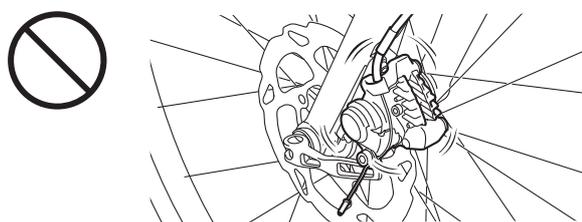
- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



ブレーキの取り付け部にゆるみやがたつきがないか点検する

異常があるとブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

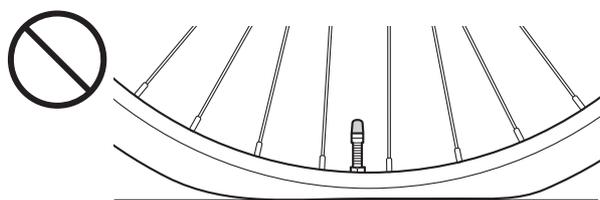
- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



タイヤの空気圧を点検し、不適正の場合は空気圧を調整する

異常があると安定した走行に支障をきたし、転倒によるけがのおそれがあります。

- お乗りいただく前に空気圧を調整してください。



1章 安全上のご注意

YPJ ご使用中 けがを防ぐために

警告

ハンドルを操作したときに引っかかり感が
ないか確認する

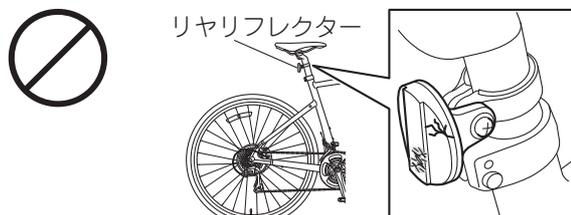
異常があると走行中にハンドル操作が
できなくなり、転倒によるけがのおそれ
があります。

- 異常がある場合はすぐに販売店で点検・整備をお受けください。

リヤリフレクターに汚れや破損がある場合は
夜間乗らない

異常があると夜間走行時の被視認性が悪くなり、衝突されるおそれがあります。

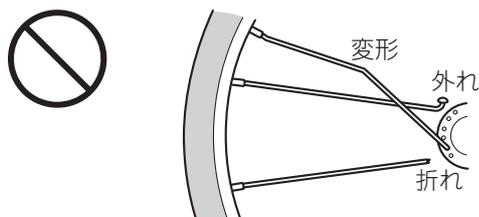
- 汚れはふき取ってください。
- 破損している場合は、すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



前後車輪のスポークが折れたり、外れたり、
変形していないか点検する

異常があると安定した走行に支障をきたし、
転倒によるけがのおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。



ベルが鳴るか点検する

異常があると緊急時の警告に支障をきたし、
衝突のおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。

タイヤが摩耗していないか点検する

異常があると安定した走行に支障をきたし、
転倒によるけがのおそれがあります。

- すぐに販売店で点検・整備をお受けください。

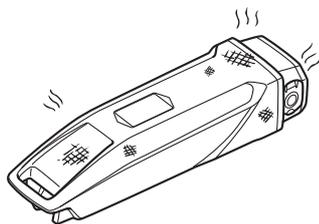
1 章 安全上のご注意

バッテリーの取り扱い中 感電や火災を防ぐために

警告

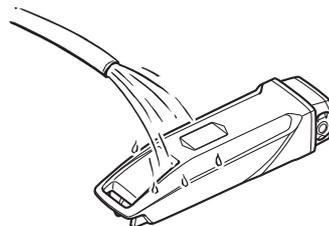
バッテリーケースに破損や傷つきがあるとき、または異臭がするときは使用しない
液漏れなどにより、やけどやけがなどのおそれがあります。

- 異常を感じたときは、すぐに販売店にご相談ください。



バッテリーに水をかけたり、水の中に入れてない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリー底部の接点を短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。



バッテリーを火中に投入したり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリーを落としたり、衝撃を与えない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

専用充電器を使用する

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーの分解や改造をしない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

改造・加工などをしたバッテリーパックは使用しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

注意

バッテリーを他の電気機器に使用しない

他の電気機器に使用すると故障の原因となります。

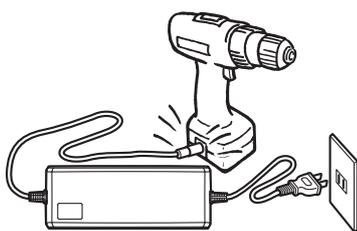
1 章 安全上のご注意

充電器の取り扱い中 感電や火災を防ぐために

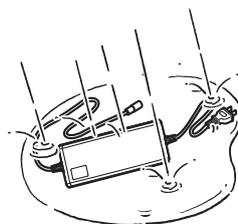
警告

YPJ 専用充電器は他の電気機器に使用しない

他の電気機器などに使用すると、火災や破裂の原因になります。

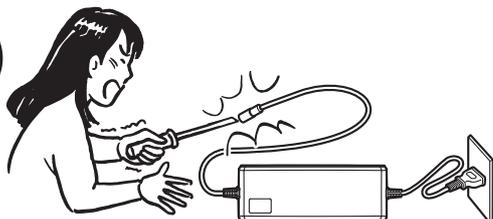


充電器を水でぬらしたり、屋外で使用しない
感電や火災、故障の原因になります。

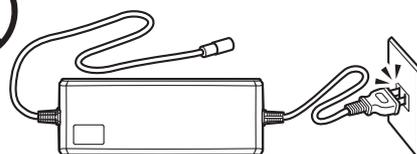


充電端子を金属などで短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。

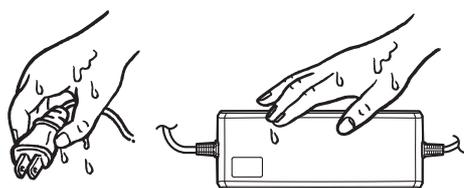


電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による
火災の原因になります。



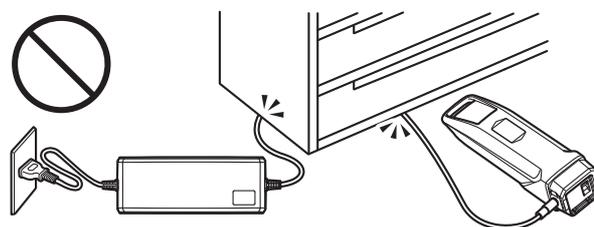
ぬれた手で電源プラグを取り扱ったり、充電
端子に触れたりしない

感電するおそれがあります。



コードの上に物を乗せたり、はさんで固定し
ない

感電や火災の原因になります。

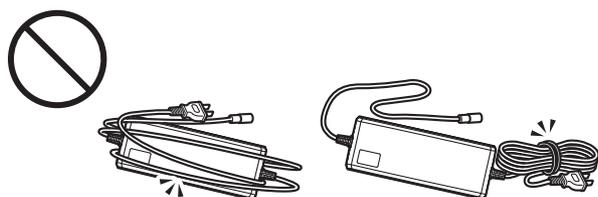


1 章 安全上のご注意

充電器の取り扱い中 感電や火災を防ぐために

警告

コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけて保管しない
コードの損傷により、感電や火災などの原因となるおそれがあります。



充電端子にボタン電池や乾電池を接触させない
破裂・発火のおそれがあります。

充電器を分解したり、改造しない
感電や火災の原因になります。

充電器を踏んだり、落としたり、衝撃を与えない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

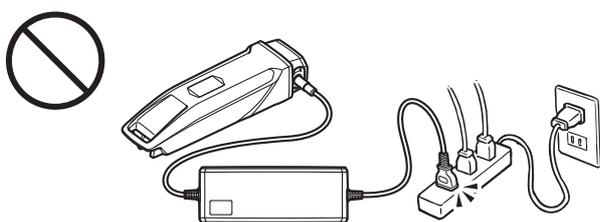
1章 安全上のご注意

充電中 感電や火災を防ぐために

警告

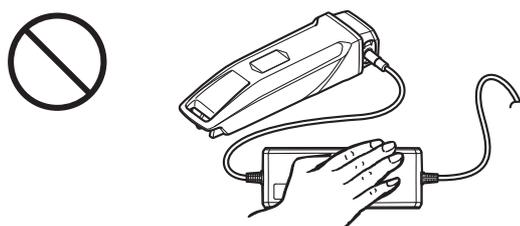
コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用しない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。



充電中は長時間、皮膚を充電器の同じ場所に触れさせない

充電中は 40℃～70℃になる場合があります、低温やけどのおそれがあります。

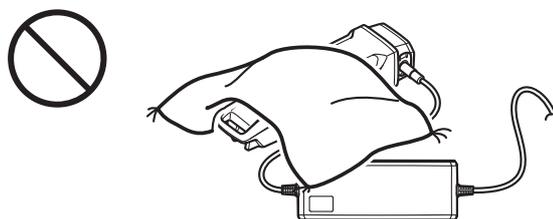


幼児やペットが触れるところに放置しない
感電や火災、故障の原因になります。



充電中に周囲にカバーをしたり、燃えやすい物を置かない

内部が発熱し、火災のおそれがあります。



ガソリンなどの引火物や引火性ガスの近くでは充電しない

火災や爆発などの原因となることがあります。

コードが損傷しているときは使用しない
感電や火災のおそれがあります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り
湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

1 章 安全上のご注意

バッテリー・充電器の保管中 事故を防ぐために

警告

バッテリーや充電器を幼児やお子様の手の届くところに置かない
落下してけがをするおそれがあります。



注意

YPJ 専用充電器を家庭用コンセント（AC100V）につないだままにしない
落雷などによる故障のおそれがあります。YPJ 専用充電器をご使用にならないときは、コンセントからプラグを抜いておいてください。

1章 安全上のご注意

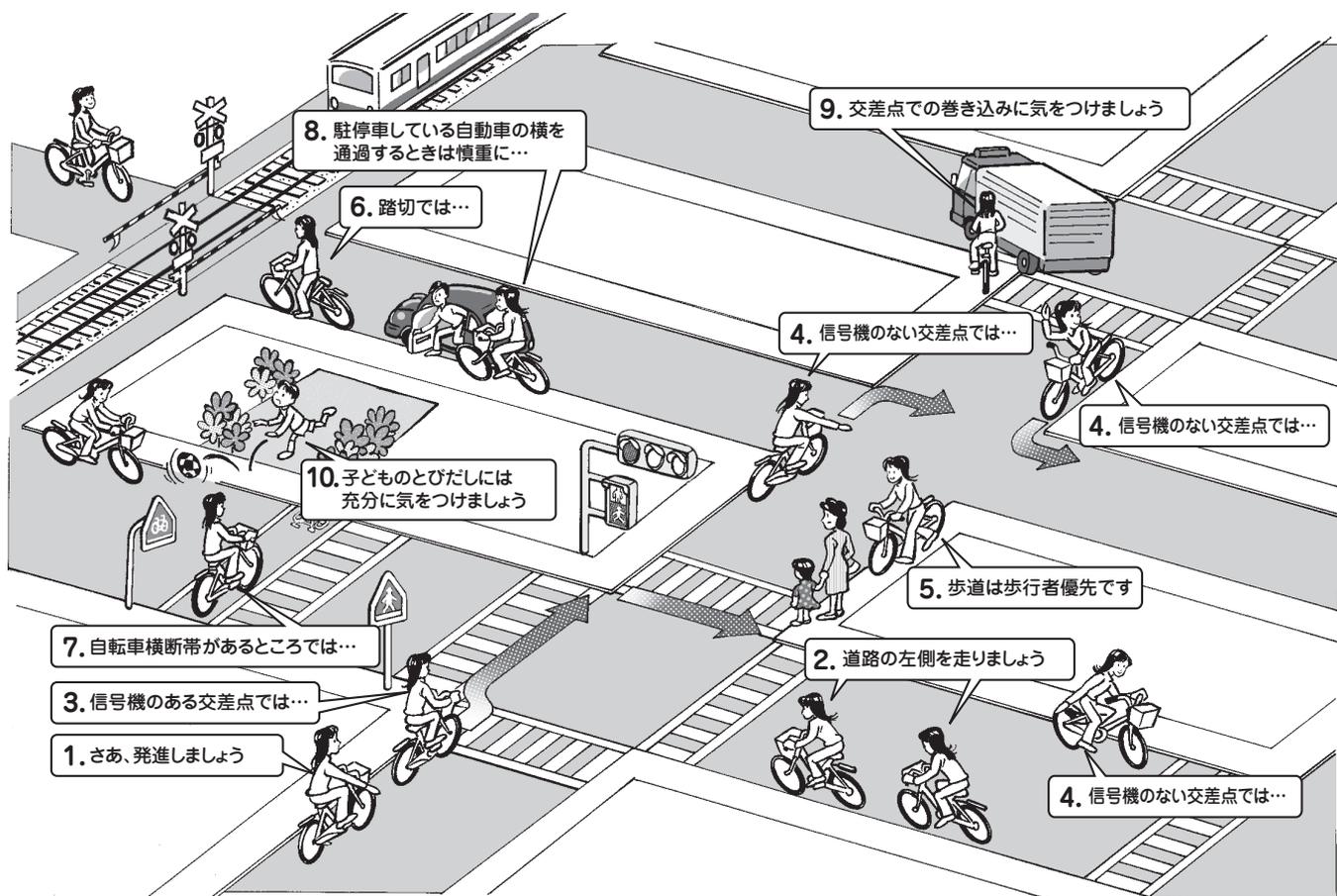
自転車の交通ルールを守りましょう

警告

快適に、そして安全に乗るために交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。交通ルールを守らないと、衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。

法令を遵守した走行をしましょう。飲酒運転、2人乗り、並進^{*1}、片手運転、無灯火運転、車道（路側帯）の右側通行などは法律により禁止されています。違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。

^{*1} 「並進可」標識がある場合を除きます。



1. さあ、発進しましょう

周囲の安全を確認して、道路の左側から発進します。

右手を地面と平行に真横にだして、後方から来る車にスタートの合図をします。

2. 道路の左側を走りましょう

自転車は、車道の左側通行が原則です。

1 章 安全上のご注意

1 章

3. 信号機のある交差点では …

信号をしっかり守り、横断しましょう。

正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。

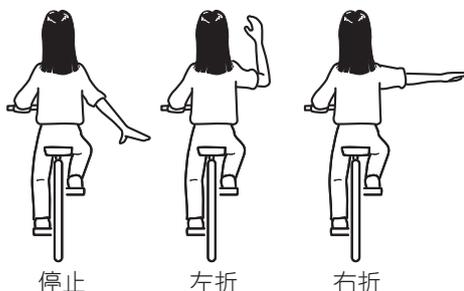
右折するときは、2段階右折をしてください。2段階右折のしかたは、正面の信号が青になったら一旦向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。

4. 信号機のない交差点では …

信号機のない見通しの悪い交差点では、周囲の安全を十分に確かめてから進みます。

曲がるとき、止まるときは合図をしましょう。右折・左折とも、30m くらい手前から合図をだします。

- 右折の合図は、右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折の合図は、右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止の合図は、右手を斜め下にだします。



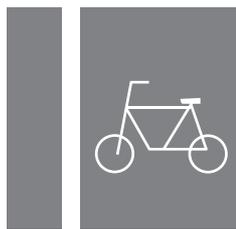
5. 歩道は歩行者優先です

『自転車および歩行者専用』の標識や表示があるところでは、歩道を通行することができますが、通行できる部分が指定されている場合は指定された部分を、指定されていない場合は歩道中央から車道よりの部分を、徐行しながら通行します。

また、歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止します。



自転車および
歩行者専用標識



普通自転車の
歩道通行部分

6. 踏切では …

踏切の手前で停車し、自転車の左側に降りてください。遮断機が上がっているときも踏切の手前で停車し、左右の安全を確認してからわたりましょう。

7. 自転車横断帯があるところでは …

自転車横断帯があるところを通行しなければなりません。

1章 安全上のご注意



8. 駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に…

駐停車中、または渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを十分に落としてから通過するようにしましょう。

9. 交差点での巻き込みに気をつけましょう

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。とくに大型車の左折による巻き込み事故に十分に気をつけましょう。また、自分が左折するときも、周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

10. 子どものとびだしには十分に気をつけましょう

近くに公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに気をつけましょう。

スピードのだしすぎや急ブレーキはやめましょう

- 下り坂や雨の日、ぬれた路面などは、滑りやすいのでブレーキ操作に気をつけましょう。
- ブレーキがぬれているときは制動距離が長くなりますので、スピードは控えめにしましょう。
- カーブや交差点などではスピードを十分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。
- ブレーキをかけるときは、必ず前後ともにかけます。前後どちらか片方だけのブレーキ操作は、転倒や横滑りの原因になります。
- 長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキが加熱して効かなくなるおそれがあります。前後ブレーキを小刻みにかけるようにしましょう。

『止まれ』の標識があるところでは…

『止まれ』の標識の手前で一旦停車し、周囲の安全を確認してから走り出しましょう。



横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに！

横断歩道の手前で一旦停車し、左右の安全を確認してから進みましょう。

1 章 安全上のご注意

1 章

お乗りになる前の調整

正しい運転姿勢になるようにサドルの高さ、ハンドルの高さおよびブレーキレバーの位置を調整してください。

サドルの高さ調整、ブレーキレバーの位置調整、およびハンドルの高さ調整は工具が必要です。調整が必要な場合は販売店にご相談ください。

正しい運転姿勢

サドルに腰掛け、両手をハンドルに軽くかけた状態で、以下のようになります。

- 両ひじは軽く曲がる
- ひざがハンドルに当たらない
- 両手の指がブレーキレバーを余裕をもって握れる



サドルの高さ調整のしかた

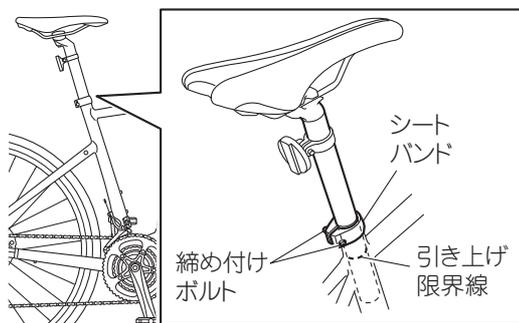
警告

- ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- 安全な場所で、車両を停車させて行ってください。
- 引き上げ限界線が見えるまで引き上げないでください。
- 調整後はガタやずれがないかご確認ください。

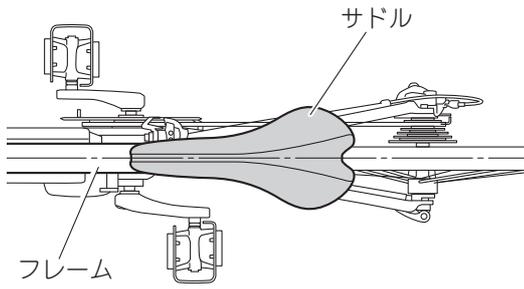
注意

サドルを低くするときには、シートポストをいっぱいまで差し込んだ位置で固定しないでください。シートポストの下端がシートパイプ内の部品と接触して、シートポストやシートパイプ内の部品が損傷するおそれがあります。シートポストをいっぱいまで差し込んだ場合は、シートポストを少し引き上げてから固定してください。

サドルの高さ調整は、次の方法で調整してください。



1 章 安全上のご注意



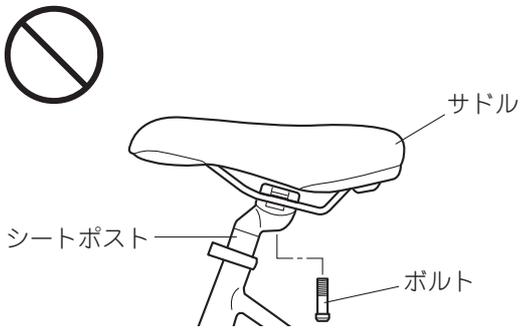
- 1 シートバンドの締め付けボルト 2 本をゆるめます
- 2 サドルの高さと向きを調整した後、シートバンドの締め付けボルトを締め付けます

シートバンド締め付けトルク：
4.0N・m (0.40kgf・m)

サドルの位置調整について

⚠ 警告

サドルとシートポストを固定しているボルトは、適切な力で締め付けられています。ボルトがゆるむと、部品が破損したり、外れたりして転倒やけがをするおそれがあります。サドルの位置調整が必要な場合は、販売店にご相談ください。

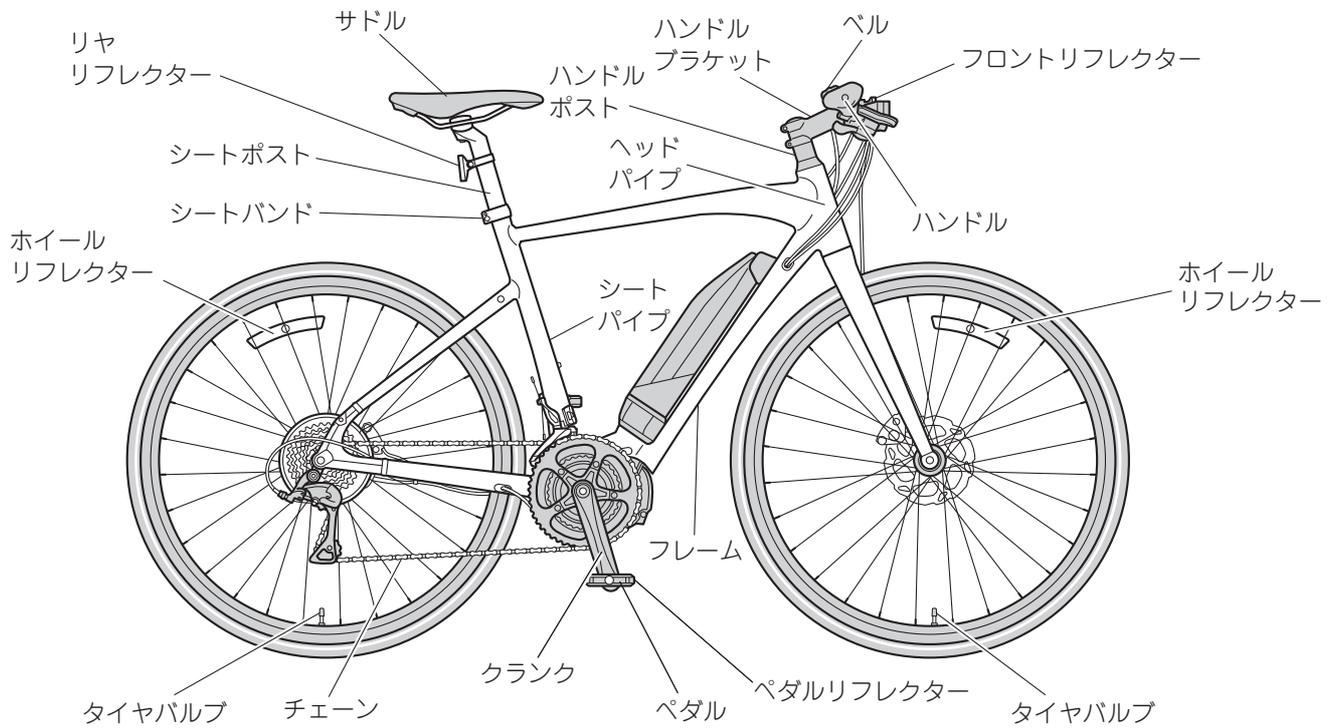


ハンドルの高さ調整のしかた

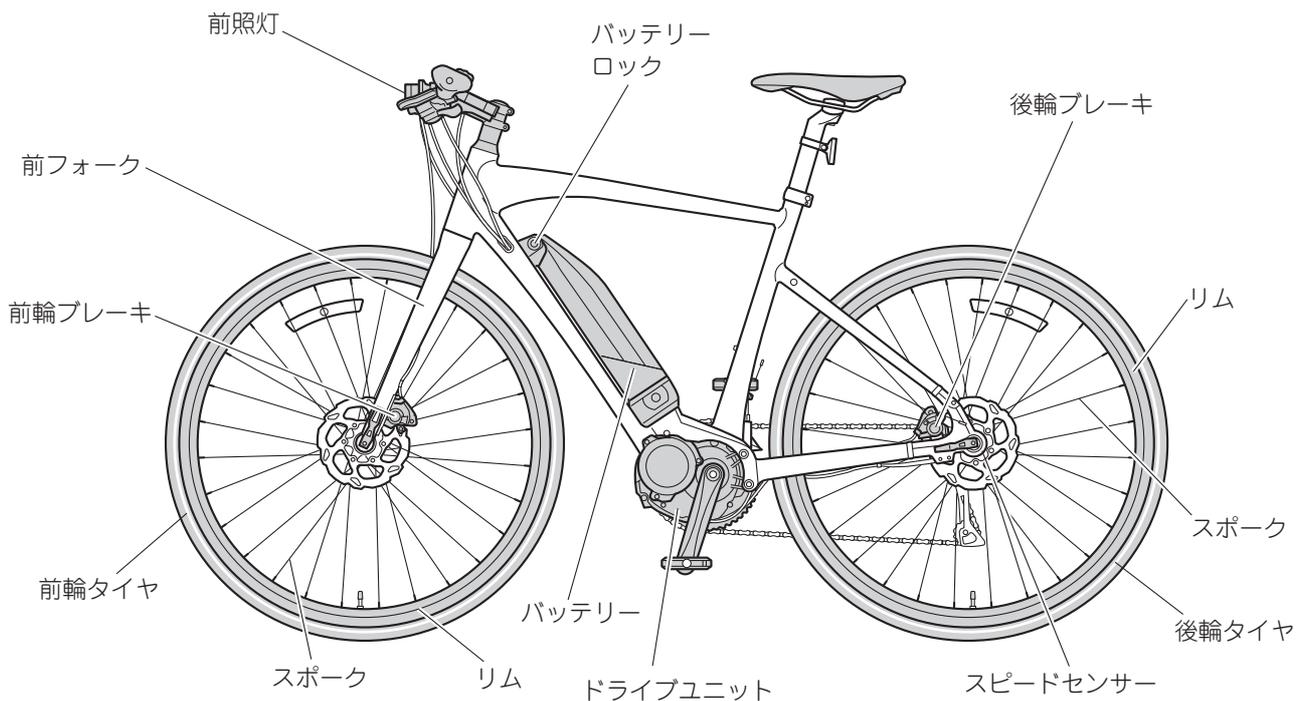
ハンドルの高さ調整については「ハンドルブラケット」(42ページ)をご参照ください。

2章 各部の名称

右側面

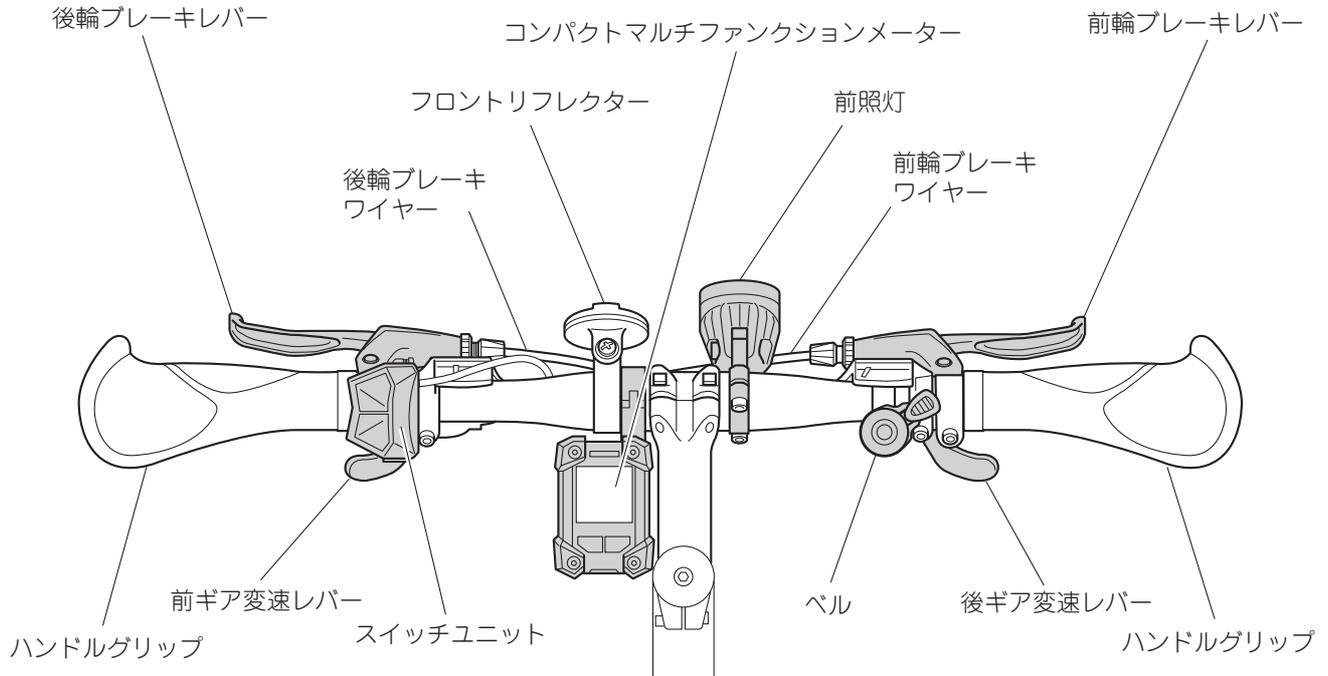


左側面

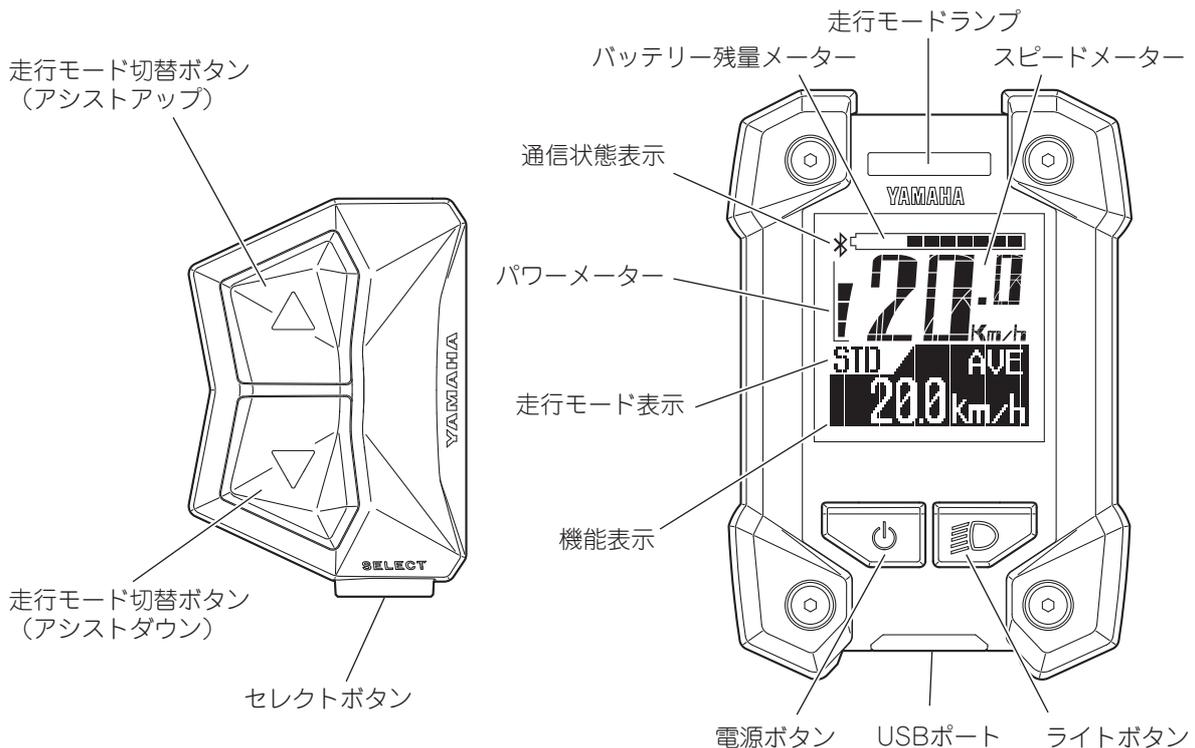


2章 各部の名称

ハンドル周り



スイッチユニットとコンパクトマルチファンクションメーター



3 章 各部の取り扱いと操作



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ発動機株式会社は、これらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

⚠ 警告

- 病院や医療機関など、電子機器やワイヤレス機器の使用が禁止されている場所では当製品の BLE (Bluetooth Low Energy) 機能を使用しないでください。医療機器などが影響を受けて事故の原因となる場合があります。
- 当製品の BLE 機能を使用する場合は、使用中の心臓ペースメーカーからコンパクトマルチファンクションメーターを十分な距離だけ離してください。電波によって心臓ペースメーカーの機能が影響を受ける場合があります。
- 自動ドアや火災報知器などの自動制御機器の近くでは当製品の BLE 機能を使用しないでください。電波によって機器が影響を受け、誤動作や意図しない動作による事故の原因となる場合があります。

3章 各部の取り扱いと操作

スイッチユニット

スイッチユニットは、走行モード切替ボタンとセレクトボタンを備えています。

走行モード切替ボタン

走行モード切替ボタンを押すと、走行モードを切り替えることができます。

- 走行モード切替ボタン（アシストアップ）を押すと、アシストオフモード→プラスエコモード→エコモード→スタンダードモード→ハイモード、と走行モードが切り替わります。
- 走行モード切替ボタン（アシストダウン）を押すと、ハイモード→スタンダードモード→エコモード→プラスエコモード→アシストオフモード、と走行モードが切り替わります。

要 点

走行モード切替ボタンの（アシストアップ）または（アシストダウン）を押し続けても、走行モードは一巡しません。

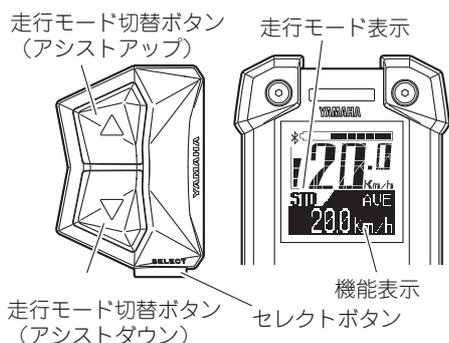
走行モードの表示については「**走行モードの表示と走行モードランプの点灯**」(28 ページ) をご参照ください。

セレクトボタン

セレクトボタンを押すと、コンパクトマルチファンクションメーターの機能表示を切り替えることができます。コンパクトマルチファンクションメーターの機能表示については「**機能表示**」(30 ページ) をご参照ください。

コンパクトマルチファンクションメーター

コンパクトマルチファンクションメーターには、以下の表示や機能があります。



3章 各部の取り扱いと操作



電源ボタン

電源ボタンを押すごとに、電源の「入」と「切」を繰り返します。電源が入ると、アニメーションが表示され、その後、バッテリー残量メーター、パワーメーター、スピードメーター、通信状態表示、機能表示、および走行モード表示（STD）が表示されます。

また、走行モードランプ（青色）が点灯します。

電源を入れたときは、走行モードは常にスタンダードモードになります。

要 点

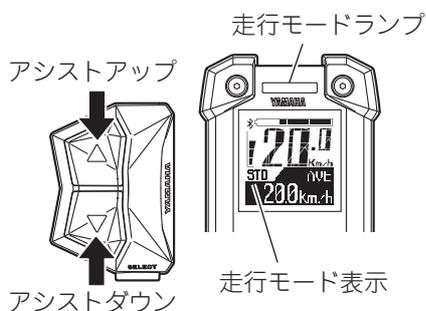
足をペダルから外した状態でコンパクトマルチファンクションメーターの電源を入れてください。コンパクトマルチファンクションメーターの電源を入れてすぐに走行を開始しないでください。アシスト力が弱くなるおそれがあります。（どちらの場合でも、アシスト力が弱いのは故障ではありません。）上記のいずれかを偶然行った場合は、足をペダルから外してから電源を入れなおし、少し経った（約2秒）後、走行を始めてください。

走行モードの表示と走行モードランプの点灯

走行モード表示は、選択されている走行モードを表示します。走行モードの切り替えについては「**走行モード切替ボタン**」（27 ページ）をご参照ください。

また走行モードランプが点灯します。

走行モードランプの設定については、「**LED 設定**」（37 ページ）をご参照ください。

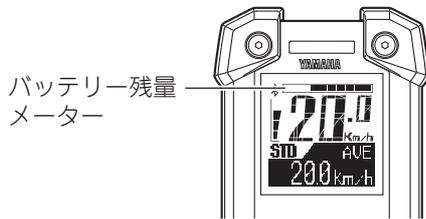


走行モード	走行モード表示	走行モードランプ
ハイモード ▲▼	HIGH	青点灯
スタンダードモード ▲▼	STD	青点灯
エコモード ▲▼	ECO	緑点灯
プラスエコモード ▲▼	+ECO	緑点灯
アシストオフモード ▲▼	OFF	消灯

3章 各部の取り扱いと操作

バッテリー残量メーターの表示

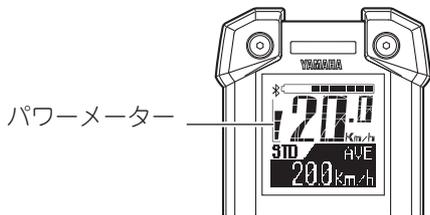
バッテリー残量の目安を 11 段階で表示します。



パワーメーターの表示

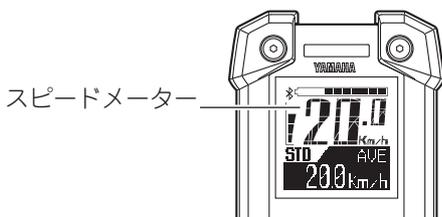
走行中のアシスト力の目安を表示します。

パワーアシスト（電動補助）システムが作動していないとき、パワーメーターのセグメントは一つも表示されません。パワーアシスト（電動補助）システムが作動してアシスト力が強まるほど、パワーメーターのセグメントが 1 個ずつ増えます。（最大 4 個）



スピードメーターの表示

走行速度を表示します。

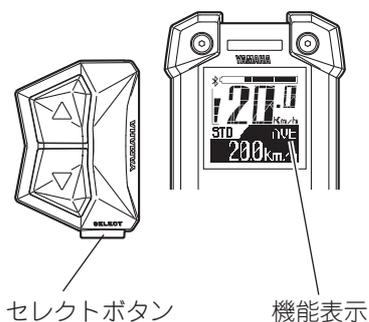


通信状態の表示

Bluetooth® 接続が可能になるときに点灯します。



3 章 各部の取り扱いと操作



機能表示

機能表示は、切り替え操作をすることで以下の表示をします。

- トリップメーター
- 平均車速
- 最大車速
- 残リアシスト走行可能距離
- バッテリー残量
- ケイデンス
- ペダリングパワーメーター
- 消費カロリー
- 時計
- オドメーター

スイッチユニットのセレクトボタンを押すごとに、トリップメーター→平均車速→最大車速→残リアシスト走行可能距離→バッテリー残量→ケイデンス→ペダリングパワーメーター→消費カロリー→時計→オドメーター、というように切り替わります。オドメーターを表示しているときセレクトボタンを押すと、トリップメーターの表示に戻ります。

機能の表示または非表示の設定方法は、「**表示項目の表示／非表示設定**」(35 ページ) をご参照ください。

トリップメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

リセット方法は「**リセット**」(35 ページ) をご参照ください。

要 点

トリップメーターは最大値 9999.9km を超えると 0km に戻ります。

平均車速

電源を入れた状態で走行したときの平均走行速度(時速)を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

リセット方法は「**リセット**」(35 ページ) をご参照ください。

STD TRIP
33.1 km

STD AVE
7.7 km/h

3 章 各部の取り扱いと操作



最大車速

電源を入れた状態で走行したときの最大走行速度（時速）を表示します。

電源を切っても、それまでのデータは残っています。

リセット方法は「リセット」(35 ページ) をご参照ください。



残リアシスト走行可能距離

取り付けられているバッテリーの残量でアシスト走行ができる距離の目安を表示します。残リアシスト走行可能距離が表示された状態でアシストモードを切り替えると、アシスト走行ができる距離の目安は変化します。

要 点

- 残リアシスト走行可能距離は、走行状況（坂道、向かい風など）やバッテリーの劣化状態により変化します。
- アシストオフモードの場合は、[----] が表示されます。



バッテリー残量

取り付けられているバッテリーの残量を表示します。



ケイデンスの表示

走行中の 1 分間あたりのクランク回転数を表示します。

要 点

ケイデンスの表示は最大値 200rpm を超えると最大値で固定されます。

3 章 各部の取り扱いと操作

ペダリングパワーメーター

電源を入れた状態で走行したときのペダリングパワー（ペダルを踏む力）の目安を表示します。



消費カロリー

電源を入れた状態で走行したときの消費カロリーの目安を表示します。

リセット方法は「リセット」(35 ページ) をご参照ください。

要 点

消費カロリーのデータは最大値99999kcalを超えると0kcalに戻ります。



時計

24 時間制で時刻を表示します。

時刻は、電源を切っても表示します。

時刻調整については「時刻設定」(36 ページ) をご参照ください。

時計は、バッテリー残量が無くなっても、内蔵するボタン電池により表示します。ボタン電池は交換することができます。ボタン電池の交換については「コンパクトマルチファンクションメーター内蔵ボタン電池の交換のしかた」(74 ページ) をご参照ください。



オドメーター

電源を入れた状態で走行した積算走行距離を表示します。

要 点

オドメーターは最大値 99999km を超えると 0km に戻ります。



3章 各部の取り扱いと操作

前照灯の「入／切」

ライトボタンを押すごとに、前照灯が点灯と消灯を繰り返します。前照灯が点灯しているときは、コンパクトマルチファンクションメーターのバックライトも点灯します。前照灯については「前照灯」(42 ページ) をご参照ください。



USB ポート

USB ケーブル (別売品) や USB 変換コネクタ (別売品) を接続することで、電子機器に電力を供給することができます。

[給電するには]

コンパクトマルチファンクションメーターの USB ポートのキャップを開きます。

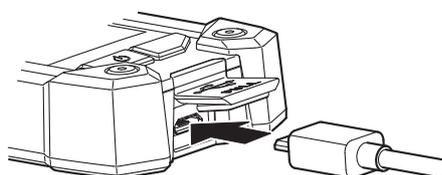
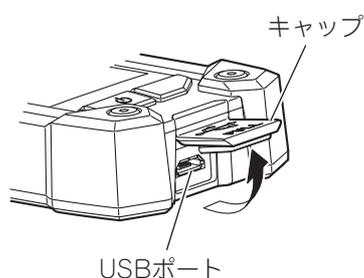
USB ケーブルをコンパクトマルチファンクションメーターと外部機器に接続します。

車体の電源を入れます。

[給電を停止するには]

車体の電源を切ります。

USB ケーブルを外し、USB ポートのキャップを閉じます。



注意

- USB プラグに無理な力を加えたり、USB ケーブルを引っ張ったりしないでください。
- USBプラグがUSBポートから完全に外れていないか、斜めになっていないか、正しい方向に向いていることを確認し、奥までしっかりと挿入されていることを確認してください。
- ぬれた状態でUSBポートとUSBプラグを接続しないでください。
- 規格に準拠した USB ケーブルを使用してください。
- USB ポートに異物を入れないでください。
コンパクトマルチファンクションメーターおよび外部機器の故障の原因となります。

要点

- USB ケーブルで外部機器を接続すると、自動的に電源が供給されます。
- バッテリーの残量が少ない場合は、電力は供給されません。

3章 各部の取り扱いと操作

- 車体が5分間操作されないと、車体の電力供給がオフになり、USB接続で供給される電力も停止します。

USBコネクター形状：
マイクロBタイプ (USB2.0)
最大定格出力：
5V, 1000mA

機能設定

以下の表示および機能の設定が可能です。

- ストップウォッチ
- 表示項目の表示／非表示設定
- リセット
- 時刻設定
- BLE設定
- USB設定
- LED設定

ストップウォッチの使いかた

ストップウォッチは、秒単位で最長9時間59分59秒までをカウントします。

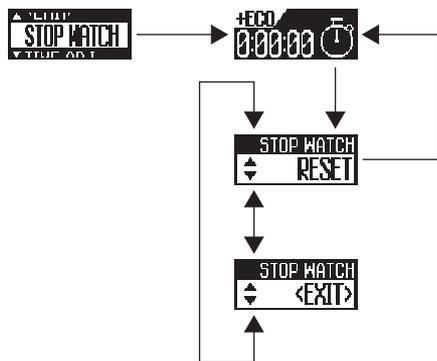
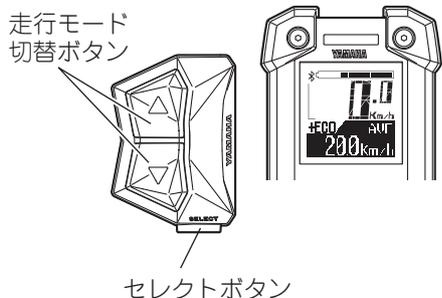
最長時間に達した場合は、自動的にゼロ(0)に戻ってカウントを続けます。

- 1 セレクトボタンを長押しします
- 2 走行モード切替ボタンで、“STOPWATCH”を選択し、セレクトボタンを押します
- 3 セレクトボタンを押すごとに、スタートとストップを繰り返します
- 4 セレクトボタンを長押しすると“RESET”が表示されます。このとき、セレクトボタンを押すとカウントがリセットされます

“RESET”表示中に走行モード切替ボタンを押すと、“RESET”と“EXIT”が交互に表示されます。

“EXIT”が表示されているときにセレクトボタンを押すと、メインの走行モード表示画面に戻ります。

ストップウォッチのカウントを止めていた場合、それまでの測定時間が残ります。カウントを止めていない場合、メインの走行モード表示画面に戻っても測定は継続されています。



3章 各部の取り扱いと操作

要点

電源を切ると測定時間がリセットされます。

表示項目の表示／非表示設定

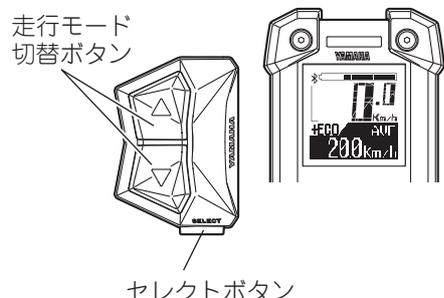
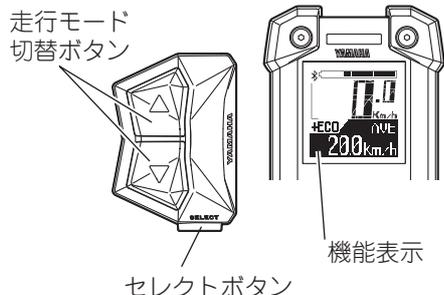
通常の走行中に表示されるさまざまな項目を、表示または非表示にすることができます。

表示または非表示を選択できる項目は、トリップメーター、平均車速、最大車速、残リアシスト走行可能距離、バッテリー残量、ケイデンス、ペダリングパワーメーター、消費カロリー、時計です。

要点

オドメーターの表示を非表示にすることはできません。

- 1 セレクトボタンを長押しします
- 2 走行モード切替ボタンで、“DSPL ITEM” を選択し、セレクトボタンを押します
- 3 走行モード切替ボタンで、表示、または非表示にする項目を選択します
- 4 セレクトボタンで、非表示にする項目のチェックボックスのチェックマーク（レ点）を外します
表示する項目のチェックボックスにはチェックマーク（レ点）を付けます。
- 5 走行モード切替ボタンで “EXIT” を選択し、セレクトボタンを押すと、設定が保持され、メインの走行モード表示画面に戻ります



リセット

トリップメーター、平均車速、最大車速、および消費カロリーのデータをリセットすることができます。

要点

オドメーターをリセットすることはできません。

- 1 セレクトボタンを長押しします
- 2 走行モード切替ボタンで、“RESET” を選択し、セレクトボタンを押します
- 3 走行モード切替ボタンで、リセットする項目を選択します

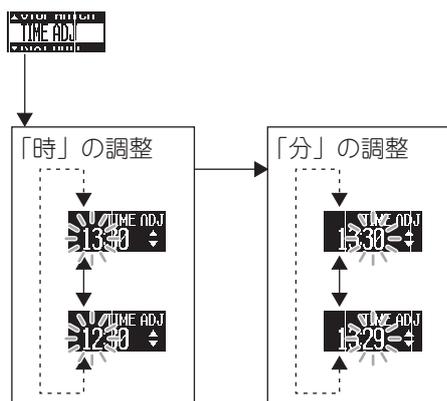
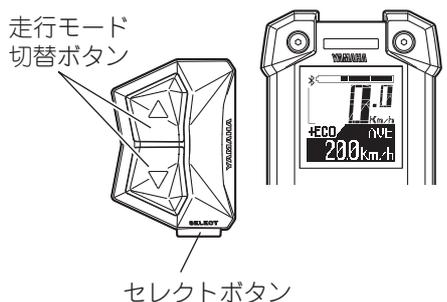
3章 各部の取り扱いと操作

3章

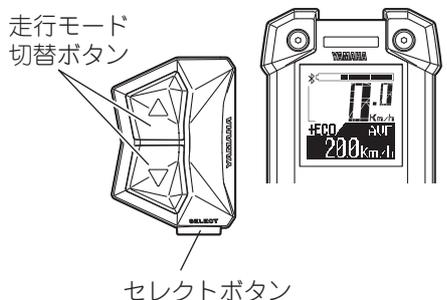
- 4 セレクトボタンを使用してリセットする項目のチェックボックスにチェックマーク（レ点）を付けます
- 5 走行モード切替ボタンで、“EXIT” を選択し、セレクトボタンを押すと、チェックマークを付けた項目がリセットされ、メインの走行モード表示画面に戻ります

時刻設定

時刻表示の調整をすることができます。



- 1 セレクトボタンを長押しします
- 2 走行モード切替ボタンで、“TIME ADJ” を選択し、セレクトボタンを押します
- 3 「時」が点滅していることを確認してから走行モード切替ボタンで「時」を調整します
- 4 セレクトボタンを押して「分」を調整します
- 5 「分」が点滅していることを確認してから走行モード切替ボタンで「分」を調整します
- 6 セレクトボタンを押すと、メインの走行モード表示画面に戻ります



BLE (Bluetooth Low Energy) 設定

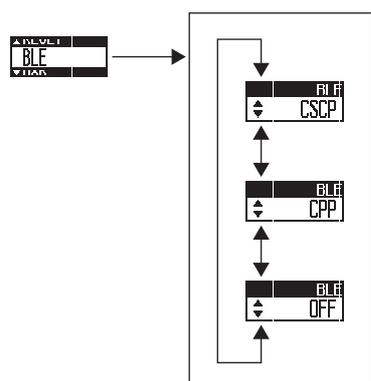
BLE 機能で使用するプロファイル、および機能の OFF を設定します。

- “CSCP” CSCプロファイルでの接続を可能にします。
- “CPP” CPプロファイルでの接続を可能にします。
- “OFF” BLE 機能を OFF し電波を出力しません。

要 点

電源を切っても設定は保持されます。次回電源を入れると、最後に使用した設定が選択されます。

3 章 各部の取り扱いと操作



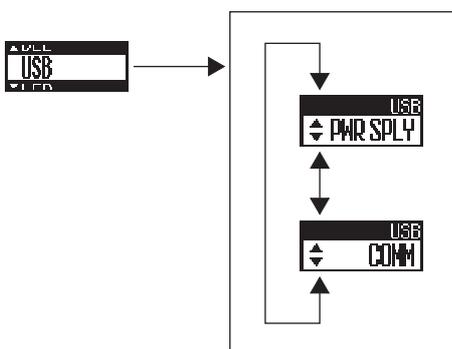
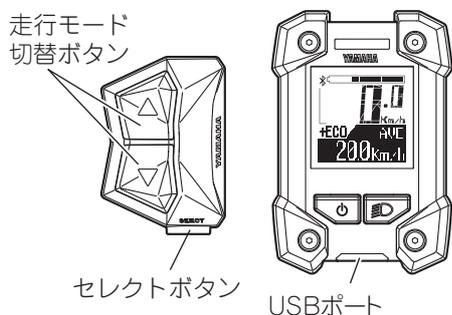
- 1 セレクトボタンを長押しします
- 2 走行モード切替ボタンで、“BLE” を選択し、セレクトボタンを押します
- 3 走行モード切替ボタンを使用して、“CSCP”、“CPP”、または“OFF” を選択します
- 4 セレクトボタンを押すと、設定が保持され、メインの走行モード表示画面に戻ります

USB 設定

当製品の USB ポートは、外部機器への電力供給にご利用いただけます。

“PWR SPLY” から変更しないようお願い致します。

“COMM” は、お客様にてご利用いただけません。

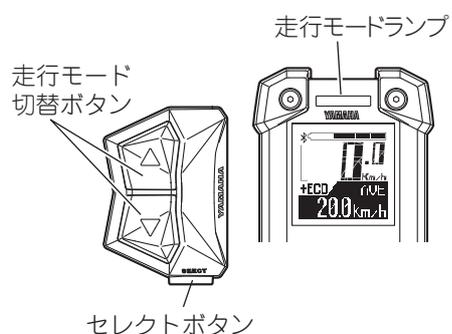


LED 設定

走行モードランプを点灯するか、常に消灯したままにするかを選択できます。

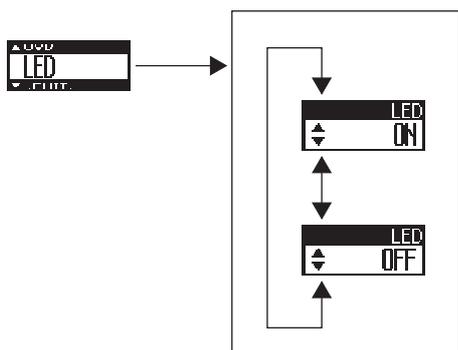
“ON” を選択すると、走行モードに応じて走行モードランプが点灯します。

“OFF” を選択すると、走行モードランプは常に消灯したままになります。

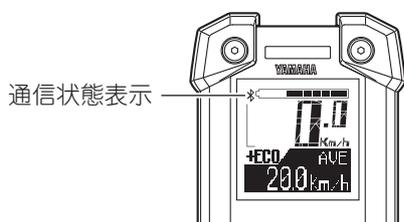


要 点
走行モードランプが“OFF” に設定されていても、エラーが発生すると赤く点灯します。

3章 各部の取り扱いと操作



- 1 セレクトボタンを長押しします
- 2 走行モード切替ボタンで、“LED” を選択し、セレクトボタンを押します
- 3 走行モード切替ボタンを使用して、“ON” または “OFF” を選択します
- 4 セレクトボタンを押すと、設定が保持され、メインの走行モード表示画面が表示されます



BLE 機器との通信

本システムは、BLE 機器向けに、CSCP および CPP での通信を提供可能です。

- 1 「機能設定」(34 ページ) を参照してコンパクトマルチファンクションメーターのプロファイルを設定します
無線通信機器の接続設定も一致していることを確認してください。
- 2 通信状態表示になっていることを確認します
- 3 無線通信機器のユーザーメニューから “Yamaha ####*” を選択します
詳細については、無線通信機器の取扱説明書をご参照ください。
* “Yamaha ####” の “####” は、不規則な英数字の組み合わせです。

要 点

- コンパクトマルチファンクションメーターと無線通信機器の距離を 1m 以内にしてください。この機器の最大通信距離は 1m です。
無線通信機器をバッグなどに入れておく場合は、実際の通信距離が短くなる場合があります。
- 磁場、静電気、電磁妨害のある場所でこの機器を使用しないでください。機器がトランスミッター、放送局、または以下の機器の近くで使用されている場合は、無線通信ができないことがあります。
 - ・電子レンジ
 - ・デジタルコードレス電話
 - ・無線通信デバイス
 - ・2.4GHz 帯を使用する他の無線機器の近く

3章 各部の取り扱いと操作

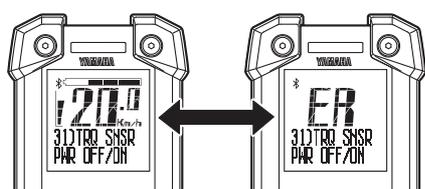
- 電波を遮るアルミニウムシートなどでコンパクトマルチファンクションメーターを覆わないでください。無線通信ができなくなるおそれがあります。
- 本システムの BLE 通信の出力レベルは、「11章 製品仕様」(89 ページ) をご参照ください。

自己診断機能による異常表示

この YPJ は、パワーアシストシステムの自己診断機能を装備しています。

パワーアシストシステムに故障や異常があれば、異常表示または異常点滅をして異常をお知らせします。

異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「コンパクトマルチファンクションメーターが異常表示・異常点滅する」(79 ページ) をご参照ください。



交互に表示

警告

異常表示がおきたときには、すみやかに対処方法をご実施ください。対処方法を実施してもなお同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検・整備をお受けください。

要点

走行モードランプが“OFF”に設定されていても、エラーが発生すると赤く点灯します。

コンパクトマルチファンクションメーターの角度調整

角度調整ボルトをゆるめてから、角度を調整してください。調整後、角度調整ボルトを締め付けます。

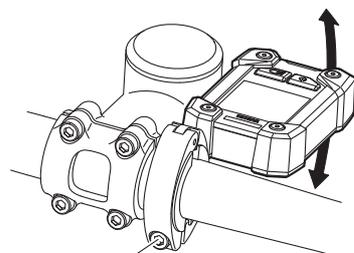
注意

ご自身での角度調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。

要点

角度調整作業には工具が必要です。

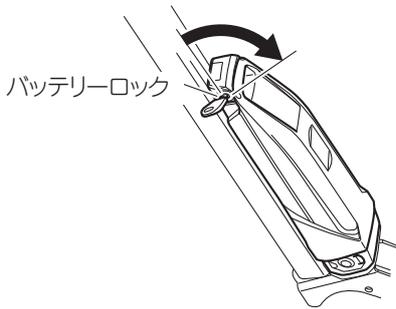
角度調整ボルト締め付けトルク：
4N·m (0.4kgf·m)



角度調整ボルト

3章 各部の取り扱いと操作

3章



バッテリーロック

このYPJは、ダウンチューブ部にバッテリーロックを装備しています。バッテリーロックは、バッテリーを車体に固定するために使用します。

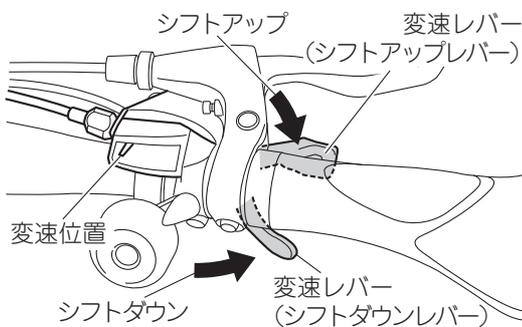
バッテリーロックを開錠するときは、キーをキーホールに差し込み、時計方向に回します。

ロックを開錠した位置では、キーを抜くことができません。キーを取り外すためには、キーを元の位置まで反時計方向に回します。

バッテリーの脱着については「充電のしかた」(48 ページ)をご参照ください。

変速レバー

このYPJは、ハンドルの左右にそれぞれシフトアップ用、シフトダウン用の2本ずつの変速レバーを装備しています。変速レバーを操作するときは、ペダルを踏む力を抜いて空転気味に軽く回しながら、1速ずつ操作してください。

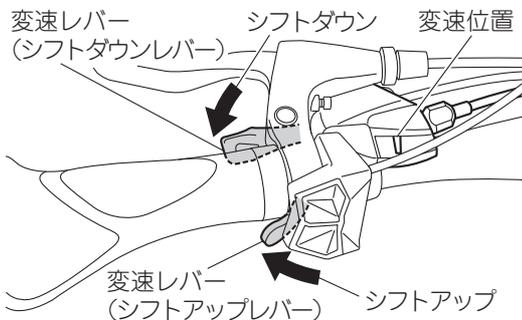


右側のレバーを操作すると、後ギアの変速操作を行えます。シフトアップレバーを引くごとに、シフトアップ（大ギアから小ギアへ変速）します。

(1速→2速→……→8速→9速)

シフトダウンレバーを押すごとに、シフトダウン（小ギアから大ギアへ変速）します。

(9速→8速→……→2速→1速)



左側の各レバーを操作すると、前ギアの変速操作を行えます。シフトアップレバーを押すと、シフトアップ（小ギアから大ギアへ変速）します。

(1速→2速)

シフトダウンレバーを引くと、シフトダウン（大ギアから小ギアへ変速）します。

(2速→1速)

3 章 各部の取り扱いと操作

警告

- 変速の操作は、周囲の安全を充分にご確認の上、行ってください。
- 発進するときは、ギア比が大きく変化する変速の操作（前ギアの小ギアから大ギアなど）はしないでください。バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。
- 一度に2速以上変速しないでください。また、前後同時に変速しないでください。チェーンが外れたりペダルの回転数が急激に変化するため、ペダルを踏み外してけがをするおそれがあります。
- シフトアップとシフトダウンを急激に繰り返す変速の操作をしないでください。チェーンがギアに斜めにくい込んだり、チェーンが外れるため、ペダルを踏み外してけがをするおそれがあります。

注意

- ペダルを強く踏み込みながら変速の操作をしないでください。無理に変速を行うと、異音が生じたり変速機が故障するおそれがあります。
- 停車時やペダルを逆回転させた状態で変速の操作をしないでください。変速機が故障するおそれがあります。

要点

- 変速操作に慣れるまで充分練習してください。
- 上り坂を走行する際は、坂の手前で変速してください。

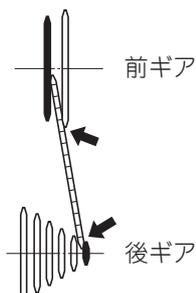
変速位置の注意

注意

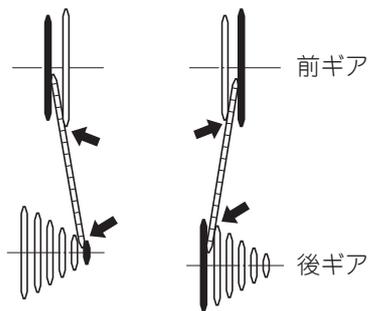
前後共に大ギア、または前後共に小ギアに変速しないでください。異音が生じるおそれがあります。また、チェーンやギアが摩耗したり変速機が故障するおそれがあります。

左図のように前後共に小ギアに変速すると、チェーンが前ギアの大ギアや変速機と接触して異音が発生する場合があります。

後ギアを1～2速大ギアに変速すると解消します。



3章 各部の取り扱いと操作



左図のように前後共に大ギア、または前後共に小ギアに変速すると、チェーンは最もねじれた状態になります。また変速機やギアに大きな負担がかかっています。

後ギアを1～2速大ギアまたは小ギアに変速すると解消します。

3章

前照灯

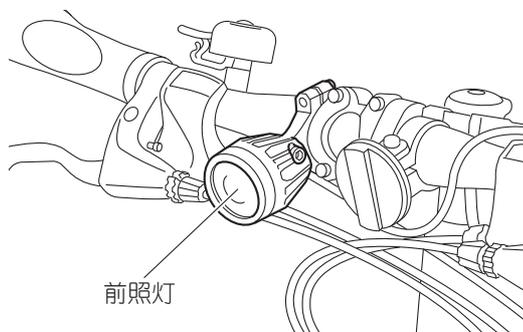
このYPJは、バッテリーを電源とした前照灯を装備しています。

注意

取付角度を左右に調整することはできません。無理に曲げたりして調整しないでください。破損の原因となります。

要点

前照灯の取付角度は水平より下向き、かつ10m前方の道路を照らすように調整してください。前照灯が水平または水平より上向きになっていると、歩行者や対向車が眩しく感じます。取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。



ハンドルブラケット

このYPJは、ハンドルブラケットの取り付け位置を変えて、ハンドルの取り付け高さを調整することができます。

警告

- ご自身での調整作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- 安全な場所で、車両を停車させて行ってください。
- 乗車前に組み付け状態を点検してください。がたつきや異常があるときは転倒や衝突するおそれがあります。使用を中止し、販売店で点検をお受けください。

3章 各部の取り扱いと操作

注意

- ハンドルの取り付け高さを調整した場合は、ハンドルを目一杯回したときにブレーキレバーがフレームと接触しないか確認してください。接触すると、フレームが傷ついたりブレーキレバーが破損するおそれがあります。接触する場合は、ブレーキレバー取り付け角度の調整を販売店にご依頼ください。
- ハンドルブラケットをゆるめた状態で四輪などで運搬すると、フォークが 180° 反転する場合があります。乗車前にフォークの向きが正しいかご確認ください。

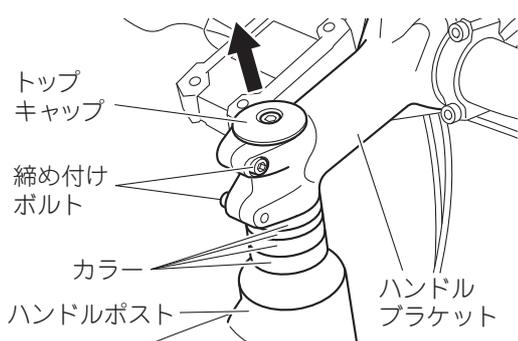
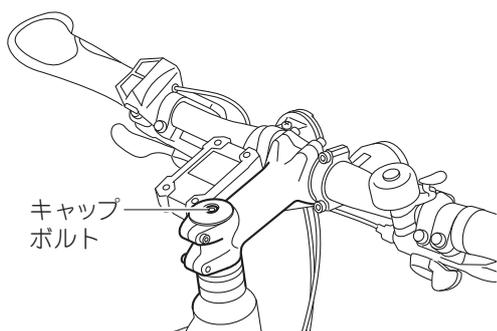
要点

ハンドルの取り付け高さの調整には工具が必要です。

ハンドルの取り付け高さ調整

ハンドルの取り付け高さはお好みの高さに調整できます。

- 1 六角レンチ (5mm) を使用してキャップボルトを取り外します

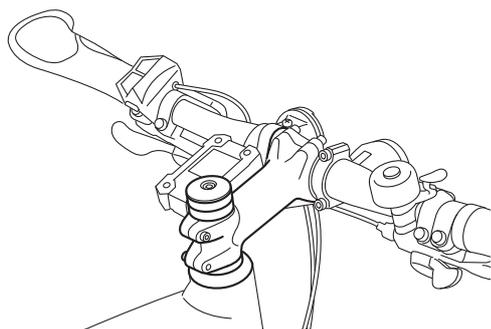


- 2 ハンドルブラケットの締め付けボルト 2 本をゆるめます
ハンドルをつけたまま、トップキャップ、ハンドルブラケットをハンドルポストから取り外し、カラーの組み付け位置を変更してハンドルブラケットの高さを調整します。

要点

カラーは厚さが異なります。

- 3 ハンドルブラケット、カラーとトップキャップをハンドルポストに組み付けます



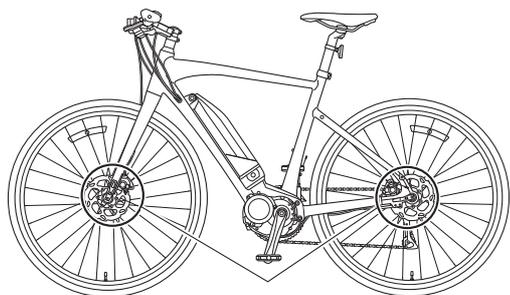
3章 各部の取り扱いと操作

4 キャップボルトを締め付けます

キャップボルト締め付けトルク：
2.5N·m (0.25kgf·m)

5 ハンドルと前輪の角度が直角になるように位置を決めて、ハンドルブラケットの締め付けボルトを締め付けます

ハンドルブラケット締め付けトルク：
6N·m (0.6kgf·m)



クイックリリース

クイックリリース

このYPJは、前後輪にクイックリリースを装備しています。クイックリリースは、工具を使用せずに車輪の取り外しおよび取り付けができます。

警告

- ご自身での取り付けおよび取り外し作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- 取り扱いに不明な点があれば、販売店にご相談ください。
- 車輪を正しく取り付けてください。正しく取り付けられていない場合、走行中に車輪が外れ、転倒によるけがのおそれがあります。
- 安全な場所で、車両を停車させて行ってください。
- 乗車前に組み付け状態を点検してください。がたつきや異常があるときは使用を中止し、販売店で点検をお受けください。
- 公共の場所（駐輪場など）に駐輪した後は、いたづらをされていないか確認してください。
- レバーは左側にセットしてください。
- レバーが車体に干渉しないようにしてください。

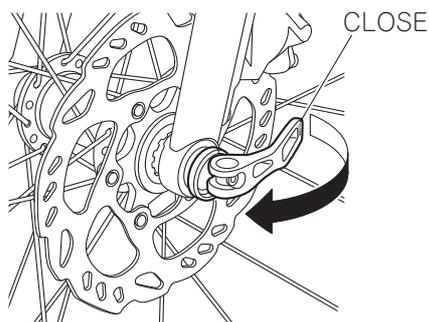
注意

レバーの操作は、必ず手で行ってください。ハンマーなどを使用すると、レバーが破損するおそれがあります。

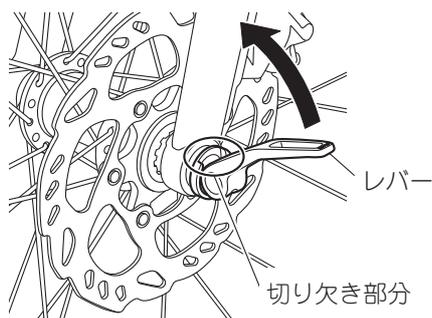
車輪の取り外しかた

前輪の取り外しかたを例に説明します。後輪を取り外しするときも、同様の手順で行ってください。

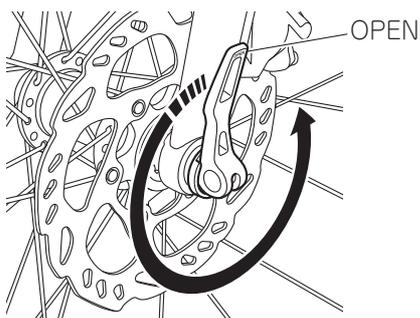
3章 各部の取り扱いと操作



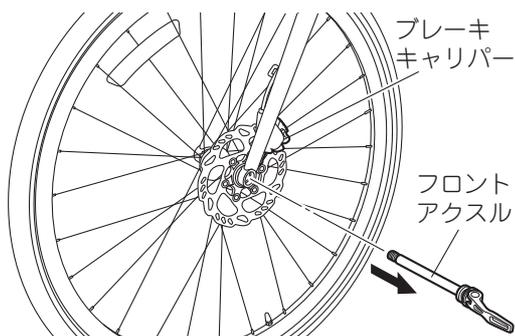
1 レバーを CLOSE の位置から OPEN の位置に操作します



2 レバーの根本が切り欠き部分に掛かるように倒します



3 切り欠き部分にレバーを引っ掛けた状態で反時計回りに回し、徐々にゆるめます



4 フロントアクスルを車体の左側へ抜いて取り外します

5 車輪を取り外します

車体が倒れないように注意して取り外してください。

注意

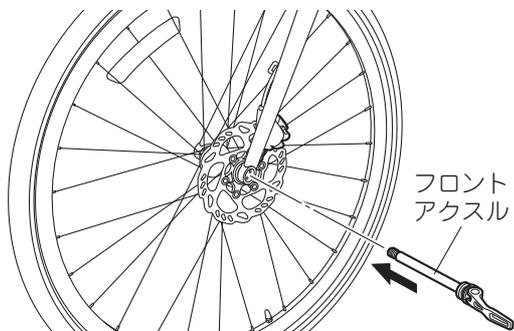
車輪を取り外した状態で、ブレーキレバーを握らないでください。ブレーキパッドが出てきて、車輪の取り付けが困難になります。

3章 各部の取り扱いと操作

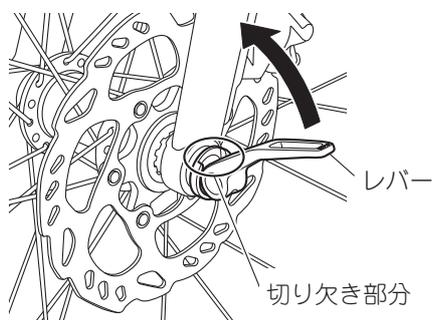
車輪の組み付けかた

前輪の組み付けかたを例に説明します。後輪を組み付けるときも、同様の手順で行ってください。

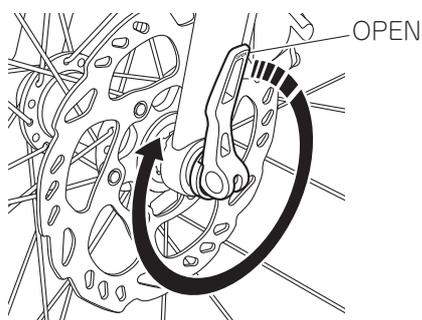
- 1 車輪を左右フォークの間に組み付け、車体の左側よりフォークエンドの穴にフロントアクスルを組み付けます



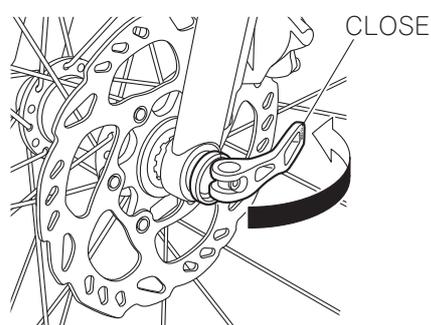
- 2 レバーの根本が切り欠き部分に掛かるように倒します



- 3 切り欠き部分にレバーを引っ掛けた状態で時計回りに回し、徐々に締め込みます



- 4 レバーを起こし、レバーが周囲の部品に接触しないようにしてCLOSE位置になる方向に倒し、固定します



要 点

レバーを簡単にCLOSE位置に操作できる場合、もしくは固定力が強すぎてCLOSE位置に操作することができない場合、再度、レバーを回し、ゆるめたり締め付けたりして確実に固定できるようにセットしてください。

- 5 ブレーキが正常に作動するか確認します

警告

ブレーキの作動に異常がある場合は、販売店にご相談ください。

4章 バッテリーの充電

YPJのバッテリー

YPJはリチウムイオンバッテリーを装備しています。

リチウムイオンバッテリーは軽量で電池容量に優れたバッテリーですが、以下の特性があります。

- 過度に暑い環境／寒い環境で性能が低下する。
- 使用していなくてもわずかず放電する。
- バッテリー残量にかかわらず充電できる。

特性については「**バッテリーの特性**」(82 ページ)をご参照ください。

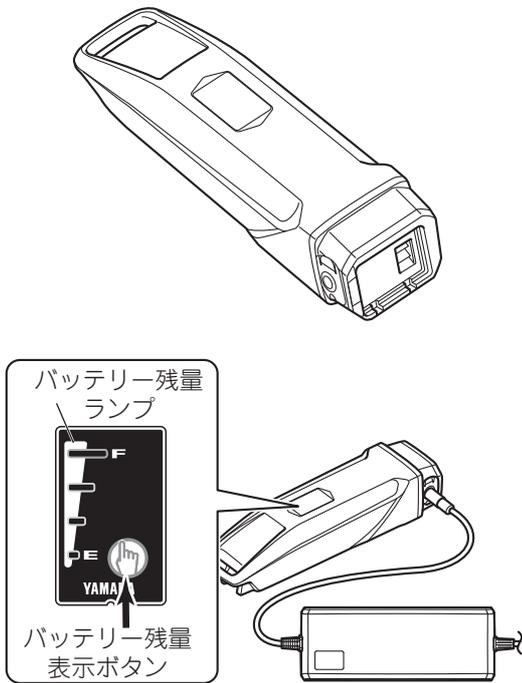
また、YPJのバッテリーはコンピューターを内蔵しており、バッテリー残量の目安や異常の発生をバッテリー残量ランプでお知らせします。

バッテリー残量は、バッテリー残量表示ボタンを押すことで約5秒間点灯してお知らせします。

バッテリー残量の目安については「**バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安**」(63 ページ)をご参照ください。異常点滅については「**バッテリー残量ランプが異常点滅する**」(79 ページ)をご参照ください。

要 点

駐輪時、バッテリーを取り外した状態で車両側の接続端子が雨水にぬれてもご使用いただけます。



充電に適した環境

過度に暑い場所や寒い場所では正しく充電できないことがあります。以下の充電に適した環境で行ってください。

- 温度が15～25℃の室内
- 雨や水にぬれないところ
- 直射日光に当たらないところ
- 風通しがよく湿気がないところ
- 平坦で安定するところ
- 幼児やペットが触れられないところ

要 点

テレビやラジオにノイズが発生する場合は、場所を移動して充電を行ってください。

4章 バッテリーの充電

充電のしかた

バッテリーを自転車に取り付けた状態で充電する場合

- 1 電源プラグを家庭用コンセント(AC100V)に接続します
- 2 バッテリーの充電口のキャップを外し、バッテリーの充電コネクタに充電器の充電プラグを接続します
充電コネクタ部の▼マークと充電プラグの矢印が合うように接続します。
確実に接続されると自動的に充電を始めます。

注意

- 充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクタは、水にぬれていないことを確認した上で接続してください。故障の原因になります。
- 充電プラグに過大な力を加えないでください。
また、充電プラグをバッテリーに接続した状態で無理に引っ張らないでください。
- 充電プラグをバッテリーに接続した状態でペダルを回さないでください。充電プラグと充電コネクタが損傷するおそれがあります。

- 3 充電状態を充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します
充電状態は「充電の確認」(52 ページ)をご参照ください。

警告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気づいたら、すぐに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。

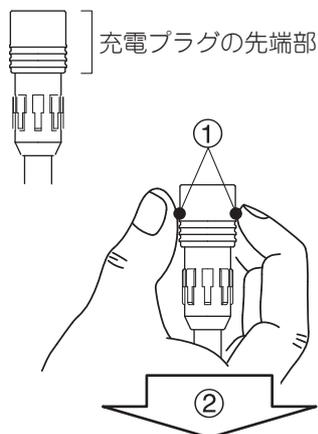
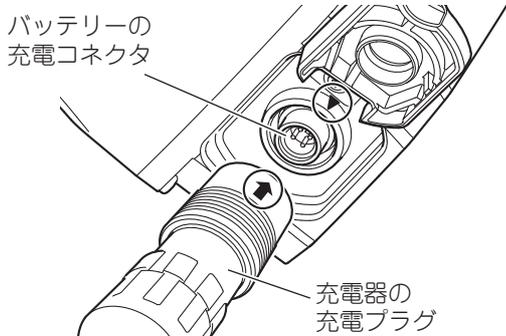
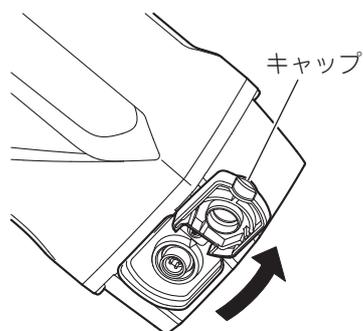
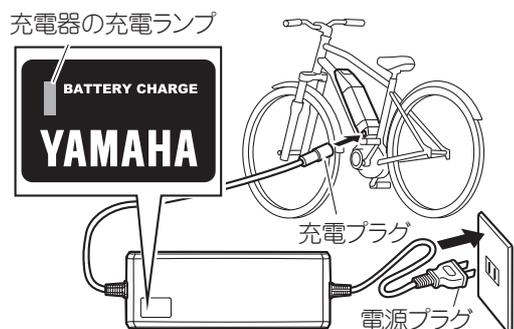
- 4 充電の完了を確かめ、充電プラグをバッテリーから取り外します

充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプが消灯します。

充電プラグの取り外しかた

- [1] 充電プラグの先端部をしっかりとつまむ
- [2] まっすぐに引き抜く

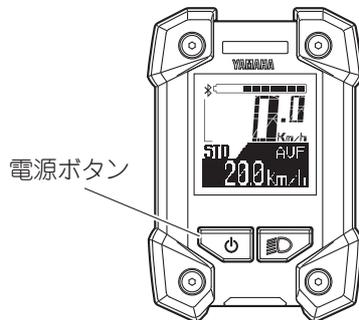
- 5 バッテリーの充電口のキャップを取り付けます



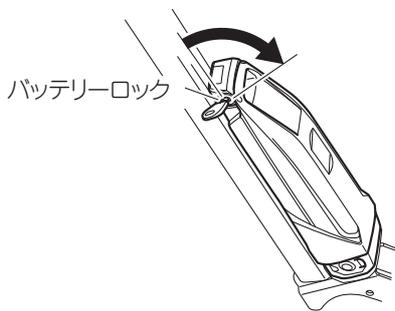
4章 バッテリーの充電

バッテリーを自転車から取り外した状態で充電する場合

1 コンパクトマルチファンクションメーターの電源ボタンを押し、電源を切ります



2 キーをバッテリーロックに差し込み、時計方向に回してバッテリーロックを開錠します



3 バッテリーを取り外します

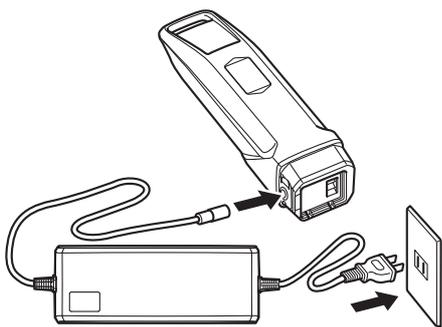
バッテリー上部を左側へスライドさせ、上側に引き上げます。

バッテリーを取り外したら、キーは元の位置まで回して取り外します。

警告

バッテリーを取り外す際は、バッテリーを落とさないよう両手で支えてください。

4章 バッテリーの充電



4 電源プラグを家庭用コンセント(AC100V)に接続します

5 バッテリーの充電口のキャップを外し、充電器の充電プラグを接続します

確実に接続されると自動的に充電を始めます。

注意

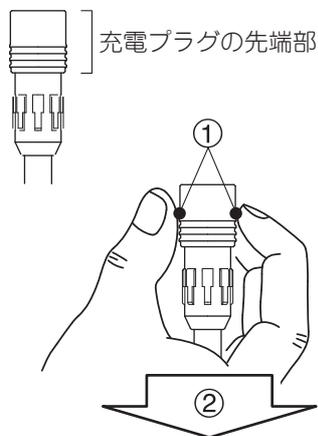
- 充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクタは、水にぬれていないことを確認した上で接続してください。故障の原因になります。
- 充電プラグに過大な力を加えないでください。
また、充電プラグをバッテリーに接続した状態で無理に引っ張らないでください。

6 充電状態を充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します

充電状態は「**充電の確認**」(52 ページ)をご参照ください。

警告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気づいたら、すぐに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



7 充電の完了を確かめ、充電プラグをバッテリーから取り外します

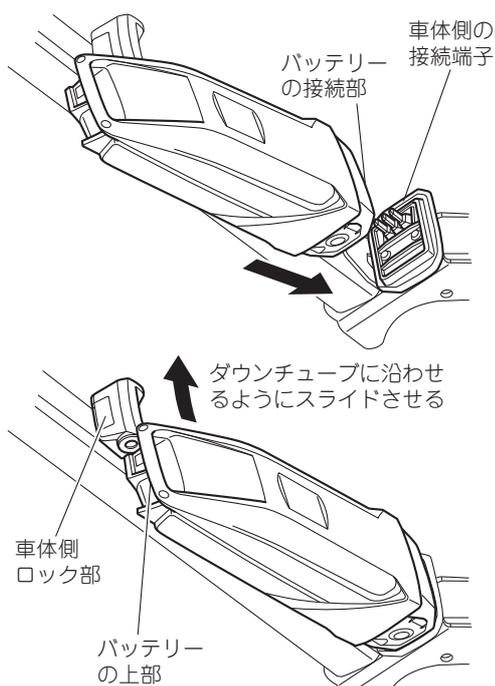
充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプが消灯します。

充電プラグの取り外しかた

- [1] 充電プラグの先端部をしっかりとつまむ
- [2] まっすぐに引き抜く

8 バッテリーの充電口のキャップを取り付けます

4章 バッテリーの充電



9 バッテリーを自転車に取り付けます

バッテリーの接続部にごみなどが付着していないことを確認した後、バッテリーの接続部を車体側の接続端子に合わせて、いっぱいまで差し込みます。

バッテリーの上部をカチッと音がするまで車体側にスライドさせて固定します。装着後、バッテリーを手前に引いて、確実に装着されていることを確認してください。

警告

- カチッと音がするまでバッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが落下するおそれがあります。
- バッテリーを取り付けるときに、指などはさまないようにしてください。

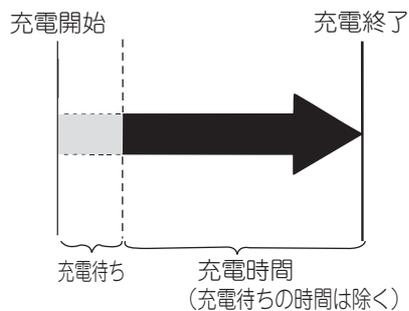
注意

バッテリーを自転車に取り付ける際は、バッテリーを車体のダウンチューブに沿わせるようにスライドさせて固定してください。

充電時間

バッテリーを残量ランプの1灯点滅まで使用したとき、満充電までの充電時間はおおよそ以下のとおりです。

充電時間：
約3.5時間



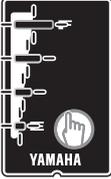
要点

- 充電時間は、バッテリー内部の温度によって異なります。
- 長期放置したバッテリーを充電した場合、電池の状態により充電時間が延びることがあります。
- 充電時間の目安には、充電待ち時間（バッテリー内部温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれていません。充電待ちについては「充電の確認」(52ページ)をご参照ください。

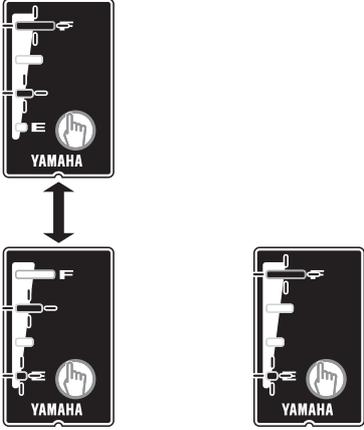
4章 バッテリーの充電

充電の確認

充電の状態は、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで行います。

充電の状態	充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	状態
充電中	 点灯	 (例: バッテリー残量が 50 ~ 74%の場合)	正常に充電しているときは、充電器の充電ランプは点灯します。バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番上側のランプが点滅します。充電が進むと、バッテリーのバッテリー残量ランプが1灯ずつ増えていきます。それに伴い点滅するランプも上側に移動します。
充電終了	 消灯	 消灯	充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。
充電待ち	 消灯	 4灯同時点滅	バッテリーの内部が高温のとき、またはバッテリーが過度に冷えているときは、充電器の充電ランプが消灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプ全てが点滅して、充電待ちの状態をお知らせします。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。
充電準備	 点灯	 1灯目が速い点滅 < 0.2秒間隔 >	充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。

4章 バッテリーの充電

充電の状態	充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	状態
異常		 <p>1 灯目と 3 灯目、 2 灯目と 4 灯目 が交互に点灯と 消灯を繰り返す。</p> <p>1 灯目と 4 灯目 が同時に点滅す る。</p>	<p>異常が発生し、充電ができない状態です。 対処方法は、「バッテリー残量ランプが異常点滅する」(79 ページ) をご参照ください。</p>

要 点

- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が 30℃ の場合、約 5 時間必要になる場合があります。
- 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、十分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

5章 お乗りになる前に

乗車前点検

警告

乗車前点検を、必ず実施してください。

異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検・整備をお受けください。異常のまま使用すると、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

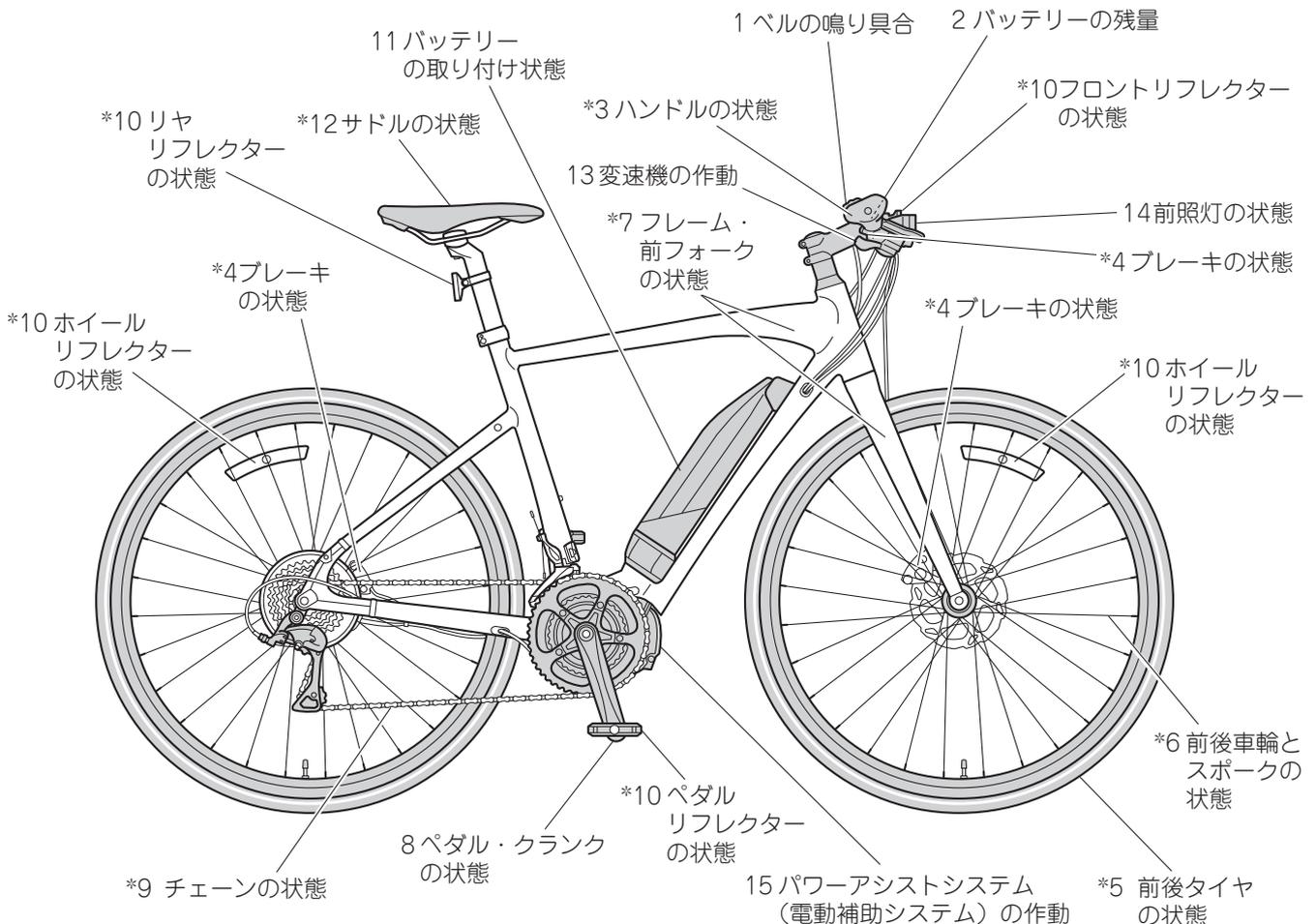
また、わからないことや難しいと感じたときは販売店にご相談ください。

注意

パワーアシスト（電動補助）機構は精密部品で構成されていますので分解しないでください。

乗車前点検は、コンパクトマルチファンクションメーターの電源を切った状態で行ってください。

バッテリーの残量、前照灯の状態およびパワーアシストシステム（電動補助システム）の作動の点検は、電源を入れて行ってください。



注) “*” の項目については、点検の詳細を記述しています。

番号	点検項目	点検内容
1	ベルの鳴り具合	• ベルが鳴るか
2	バッテリーの残量	• バッテリーの残量が充分にあるか

5章 お乗りになる前に

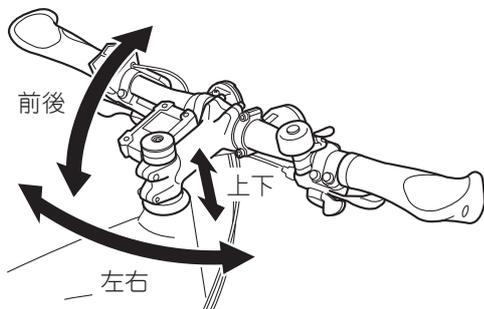
番号	点検項目	点検内容
*3	ハンドルの状態	<ul style="list-style-type: none"> • がたつきがないか • 直角に固定されているか • グリップが回ったり抜けたりしないか
*4	ブレーキの状態	<ul style="list-style-type: none"> • レバーとハンドルグリップとの間、約 1/2 でブレーキが効くか • ブレーキレバーがずれたり動いたりしないか • ブレーキワイヤーにさび、切れ、ほつれ、折れがないか • ブレーキパッドがローターに当たったままになっていないか • ブレーキパッドの残りは充分か • ブレーキの取り付け部にゆるみやがたつきがないか
*5	前後タイヤの状態	<ul style="list-style-type: none"> • 空気圧は適正か • 摩耗していないか • 異物やくぎなどが刺さっていないか
*6	前後車輪とスポークの状態	<ul style="list-style-type: none"> • ゆるみやがたつき、ふれがないか • スポークの折れ、ゆがみ、変形はないか
*7	フレーム・前フォークの状態	<ul style="list-style-type: none"> • 変形、亀裂、膨れなどの異常がないか
8	ペダル・クランクの状態	<ul style="list-style-type: none"> • ゆるみやがたつきがないか • スムーズに回転するか • 変形、ひび割れはないか
*9	チェーンの状態	<ul style="list-style-type: none"> • 滑らかに動くか • 異物や小石などがはさまってないか
*10	フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターの状態	<ul style="list-style-type: none"> • 汚れ、破損がないか
11	バッテリーの取り付け状態	<ul style="list-style-type: none"> • 確実に固定されているか
*12	サドルの状態	<ul style="list-style-type: none"> • 引き上げ限界線が見えていないか • シートバンドにゆるみがないか • ずれたり回転しないか • サドル上面がほぼ水平に固定されているか • シートポストに傷つき、へこみ、亀裂などの異常がないか • サドルの取り付けにゆるみ、がたつきがないか
13	変速機の作動	<ul style="list-style-type: none"> • スムーズに変速するか
14	前照灯の状態	<ul style="list-style-type: none"> • 光軸中心が 10m 前方を照らしているか • 前照灯の取り付けにゆるみ、がたつきがないか
15	パワーアシストシステム（電動補助システム）の作動	<ul style="list-style-type: none"> • 発進時にパワーアシストシステムが作動するか

5章 お乗りになる前に

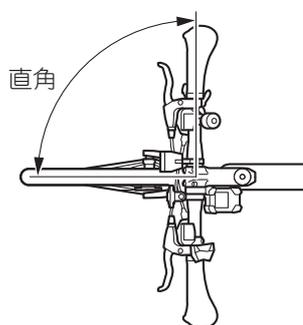
点検の詳細

*3 ハンドルの点検

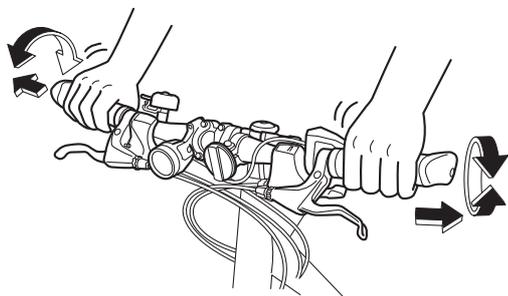
- ハンドルを前後／左右／上下の方向に動かし、ガタがないかを点検します。



- ハンドルが前輪に対して直角に固定されているかを点検します。

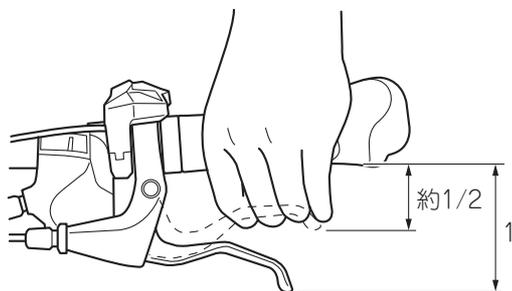


- ハンドルグリップに力を入れて回しても、回ったり、抜けたりしないかを点検します。



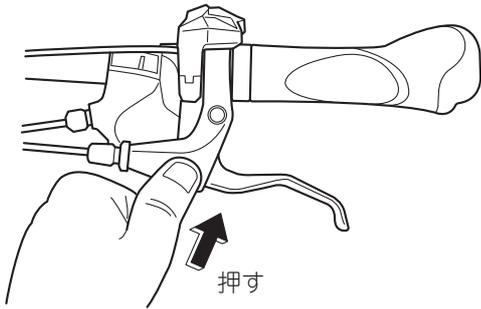
*4 ブレーキの点検

- ブレーキレバーを握ったときに、レバーとハンドルの隙間が約 $1/2$ の距離にあるかを点検します。

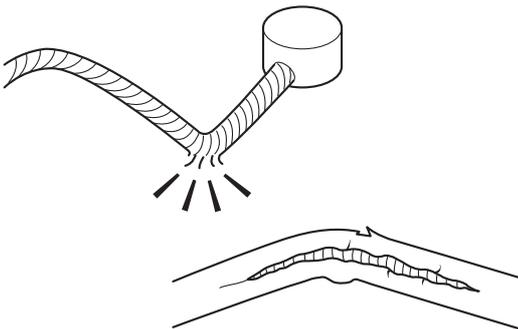


5章 お乗りになる前に

- 前後ブレーキレバーの取り付け部を指で押し、ずれたり動いたりしないかを点検します。



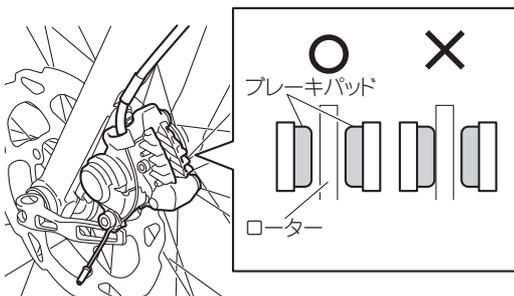
- ブレーキワイヤーにさびや切れ、ほつれ、折れなどがいないかを点検します。



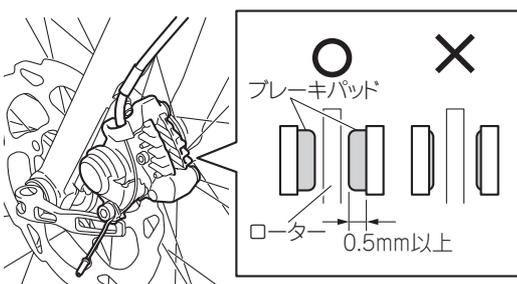
- 前後ブレーキがよく効くか点検します。効きが弱い場合は販売店で点検・調整をお受けください。



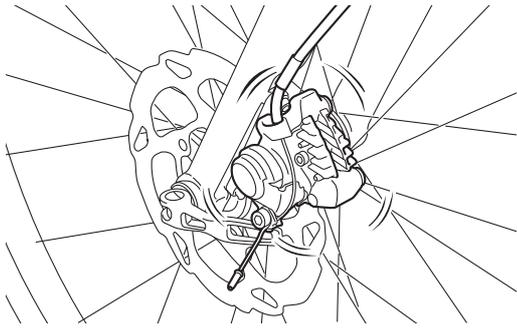
- ブレーキパッドがローターに当たったままになっていないことを点検します。



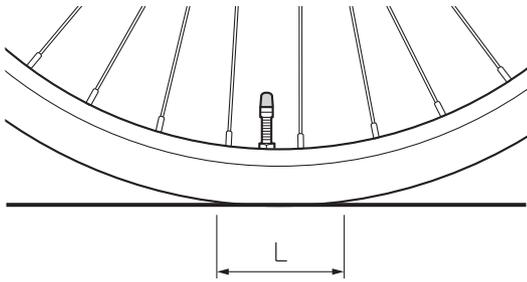
- ブレーキパッドが残り0.5mm以上あることを点検します。
- ローターの厚さは充分かを点検します。
- ローターの厚さが1.5mm以上あるか、片方のアルミ面が露出する程度まで摩耗していないか、ひび・曲がりがないかを点検します。



5章 お乗りになる前に



- ブレーキの取り付け部にゆるみ、がたつきがないか点検します。



*5 前後タイヤの点検

- タイヤの空気圧を点検し、不適正な場合は空気圧を調整してください。

空気圧は、YPJに乗車（体重60kgの方）した状態での接地面の長さで簡易に判定することができます。

最大空気圧

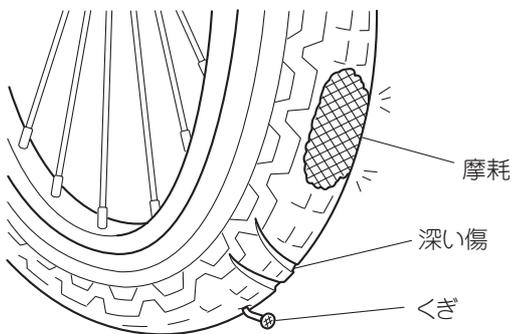
前輪：515kPa (5.1kgf/cm², 5.1bar)

後輪：515kPa (5.1kgf/cm², 5.1bar)

接地面の長さ (L)

前輪：70 ~ 80mm

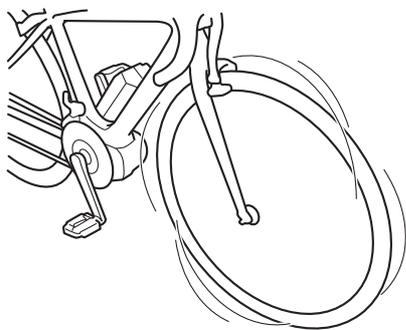
後輪：85 ~ 95mm



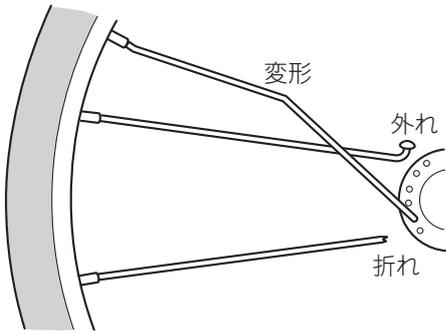
- タイヤが摩耗していないか、深い傷はないか、異物やくぎなどが刺さっていないかを点検します。

*6 前後車輪とスポークの点検

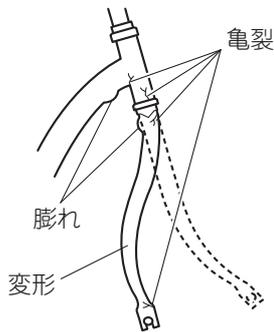
- YPJを持ち上げて車輪を回転させ、前後車輪にゆるみやがたつき、ふれがないかを点検します。



5章 お乗りになる前に

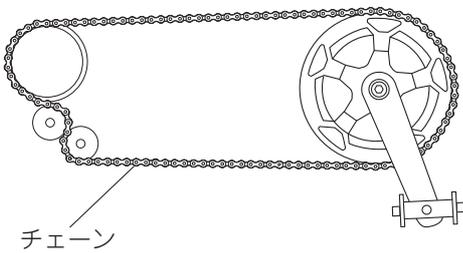


- スポークが折れたり、外れたり、変形していないかを点検します。



*7 フレームと前フォークの点検

- 変形や亀裂、膨れなどの異常がないかを点検します。



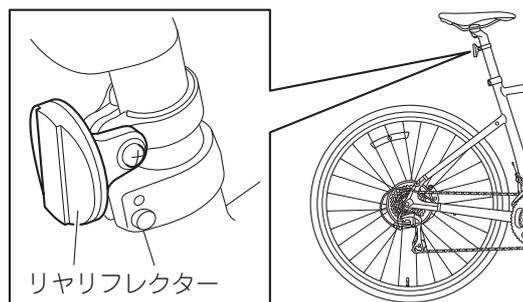
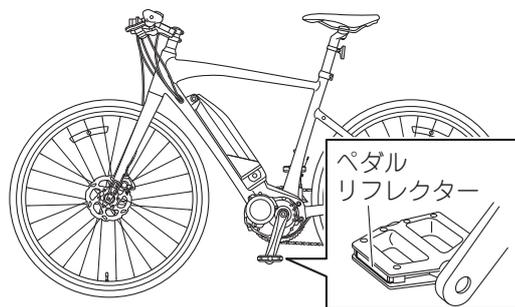
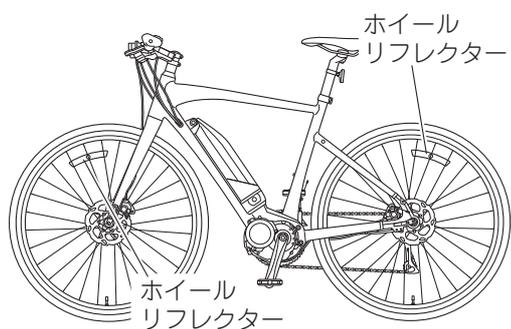
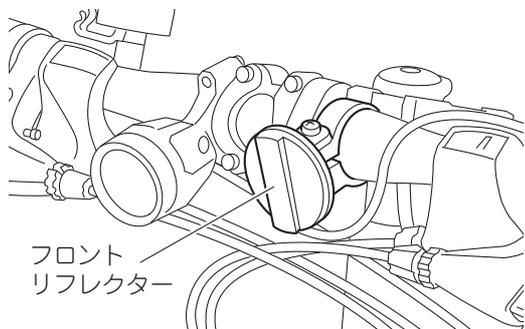
*9 チェーンの点検

- 油切れがなく、ペダルを手で動かしたときに滑らかに動くか、小石などの異物をはさまっていないかを点検します。

5章 お乗りになる前に

*10 フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターの点検

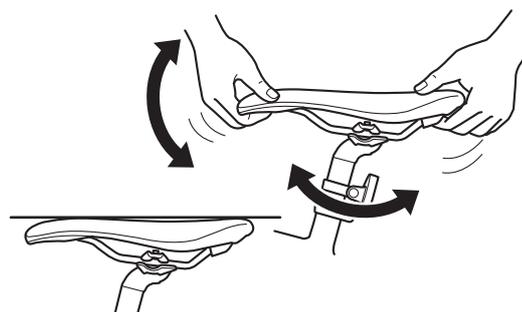
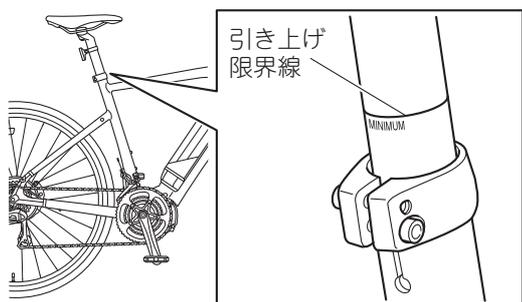
- フロントリフレクター・ホイールリフレクター・ペダルリフレクター・リヤリフレクターに汚れ、破損がないか点検します。



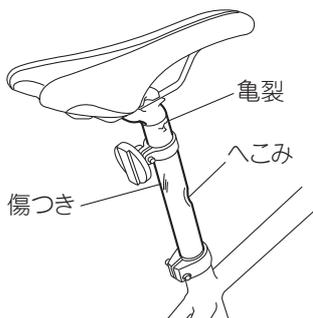
5章 お乗りになる前に

*12 サドルの状態

- シートポストにある引き上げ限界線が隠れるまで差し込まれているかを確認します。



- シートバンドにゆるみがないかを確認します。
- サドルの前後を持って動かし、力を入れても回らないことを確認します。
- サドル上面がほぼ水平に固定されていることを確認します。



- シートポストに傷つき、へこみ、亀裂などの異常がないかを点検します。

5章 お乗りになる前に

バッテリー残量の確認

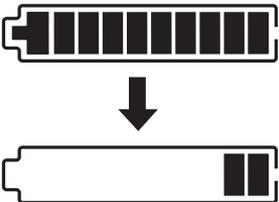
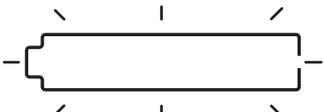
バッテリーにどの程度の残量があるか、どの程度充電されているかの目安を確認することができます。確認はコンパクトマルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターと、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。

要 点

バッテリーの残量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。

バッテリー残量メーターの表示とバッテリー残量の目安

コンパクトマルチファンクションメーターにバッテリー残量を表示します。

バッテリー残量メーターの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ~ 11%	バッテリー残量が100%から11%の間は、バッテリー残量が10%減少するごとに、バッテリー残量メーターのセグメントが1個ずつ減少していきます。
 遅い点滅 <0.5 秒毎>	10 ~ 1%	バッテリー残量が10%から1%の間は、一番下のセグメントが遅い点滅をします。バッテリー残量が残りわずかです。
 速い点滅 <0.2 秒毎>	0%	バッテリー残量が0（ゼロ）になりました。

5章 お乗りになる前に

バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

バッテリーのバッテリー残量ランプは以下のように表示します。

バッテリー残量を確認するときは、残量表示ボタンを押します。

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ~ 75%	満充電 (F) から 1 灯ずつ残量ランプが減少していきます。
	74 ~ 50%	
	49 ~ 25%	
	24 ~ 11%	
 1 灯目の遅い点滅 <0.5 秒間隔>	10 ~ 1%	バッテリー残量が残りにわずかです。
 1 灯目の速い点滅 <0.2 秒間隔>	0%	バッテリー残量が 0 (ゼロ) になりました。

5章 お乗りになる前に

充電あたりの走行できる距離

1回の充電で走行できる距離の目安は、以下の表のようになります。

なお、走行できる距離は走行モードによっても異なります。

走りかた	走行距離				
	40km	80km	120km	160km	200km
標準パターン*1 	ハイモード 89km スタンダードモード 109km エコモード 148km プラスエコモード 222km				
4度登坂連続パターン*2 	ハイモード 32km スタンダードモード 38km エコモード 52km プラスエコモード 77km				

*1 標準パターンとは

勾配 7.0% (4 度) の上り坂を変速位置〈前 1 速、後 7 速〉で、その他を変速位置〈前 2 速、後 9 速〉で、連続走行した場合をいいます。

*2 4 度登坂連続パターンとは

勾配 7.0% (4 度) の坂道を変速位置〈前 1 速、後 7 速〉で、速度 10km/h で連続走行した場合をいいます。

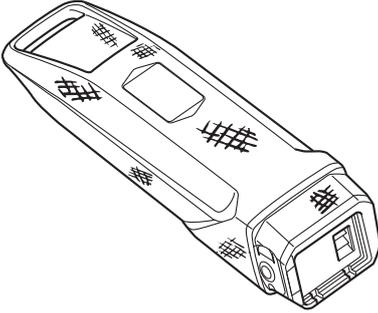
要 点

上記データは、新品バッテリーを常温 15 ~ 25℃で使用し、積載重量は 65kg (乗員および荷物を合計した重量)、無風の平滑乾燥路を走行したときの弊社データです。

5章 お乗りになる前に

走行距離が短くなる環境や使いかた

• 以下の状況で走行した場合は、走行距離が短くなります。

<p>発進、停止の回数が多い</p> 	<p>急な坂道が多い</p> 	<p>路面の状態が悪い</p> 
<p>積載重量が重い</p> 	<p>向かい風が強い</p> 	<p>気温が低い</p> 
<p>前照灯が点灯している</p> 	<p>バッテリーが劣化している</p> 	

• 整備不良の場合も、走行距離が短くなります。

走行距離が短くなる整備不良の例：

- ・ タイヤの空気圧が低下している
- ・ チェーンが滑らかに動かない
- ・ 常にブレーキが効いている

5章 お乗りになる前に

荷物を積載するには

別売アクセサリ品のリヤキャリアの購入や取り付けについては、販売店にご相談ください。



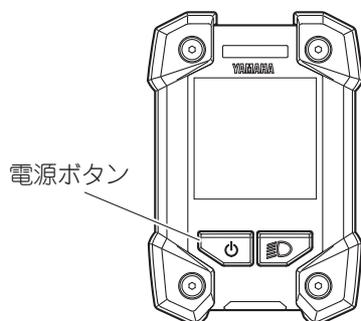
⚠ 警告

- 荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させるおそれがあります。
- 荷物の積みすぎは車体や部品が破損し、転倒によるけがのおそれがあります。
- 荷物の大きさ限度を超えて積載すると、はみ出した荷物が歩行者などに接触するおそれがあります。
- 積載重量限度および荷物の大きさの限度の範囲内であっても、個人差により不安を感じる場合は荷物を減らしてください。
- 荷物の左右バランスを考慮して積載してください。
- 荷物を確実に固定してください。
- 荷物を固定するときにひもやベルトなどを使用する場合は、ゆるまないようにしてください。ゆるんだひもやベルトなどが車輪に巻き込まれるおそれがあります。
- この YPJ の最大積載重量（乗員の体重と荷物の積載重量の合計）は 90kg です。最大積載重量を超えないようにしてください。

6章 乗りましょう

発進のしかた

- 1 サドルにまたがります
- 2 ペダルに足をかけずに、コンパクトマルチファンクションメーターの電源ボタンを押して電源を入れます



- 3 ペダルをゆっくり踏み込みます

警告

- けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。
- 自転車を乗り入れても良い公園や広場など安全な場所でよく練習し、パワーアシストの特徴に充分慣れてから一般道路でお乗りください。

要点

ペダルに足をかけた状態で後ろにさがろうとすると、パワーアシストシステムが作動して後ろにさがりにくくなります。ペダルから足を降ろして数秒間待ってから後ろにさがってください。

ブレーキのかけかた

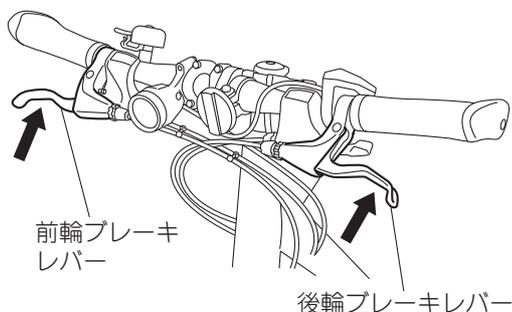
ブレーキをかけるときは、必ず前後ブレーキを併用し、後輪ブレーキを先にかけてから前輪ブレーキをかけます。

坂道では、ブレーキを前後ともにかけて安全な速度で走行してください。とくに長い下り坂を前後どちらかのブレーキだけを使って走行すると、ブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。

雨天などでブレーキがぬれているときは、制動距離が長くなります。ブレーキを前後ともにかけてゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけてください。

警告

片側だけのブレーキ操作はしないでください。スリップして転倒によるけがのおそれがあります。



6章 乗りましょう

要 点

ブレーキ操作の繰り返しで発生する飛散物により、衣服などに汚れが付着することがあります。ブレーキパッドおよびローターの定期的な清掃を行ってください。

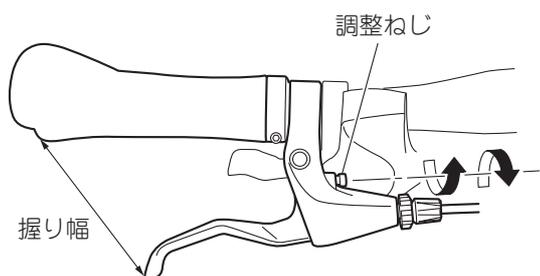
ご自身での清掃作業に自信のない方は、販売店にご依頼ください。

ブレーキレバーの位置調整

ブレーキレバーの調整ねじを回すことで、ハンドルグリップとブレーキレバーとの握り幅を調整することができます。

要 点

ご自身での調整作業に自信のない方は、販売店にご相談ください。



降車のしかた

1 前後ブレーキをかけ、停車します

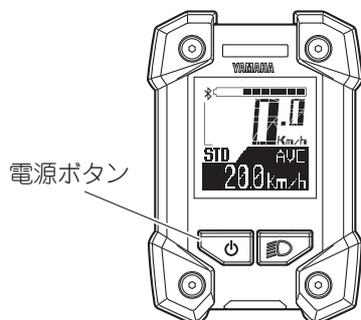
完全に停止してから、ブレーキレバーを握ったままゆっくりと降車します。

⚠ 警告

走行直後のブレーキ部を触らないでください。ブレーキを頻繁に使用した場合、ブレーキ部が高温になることがあります。



2 コンパクトマルチファンクションメーターの電源ボタンを押して電源を切ります



初回点検（2 か月目点検）と定期点検

安全にお乗りいただくために、お買い上げいただいてから 2 か月目の初回点検と、6 か月ごとの定期点検を販売店で実施してください。

初回点検（2 か月目点検）

工場では十分な検査を実施した後に出荷していますが、まれに使用後 1～2 か月の間にボルトなどのゆるみが生じることがあります。

お買い上げいただいた販売店に保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、お買い上げいただいてから 2 か月目に初回点検を受けてください。初回点検（2 か月目点検）は、お買い求めいただいた販売店での実施に限り無料となります。

また、ご使用状況などにより部品交換が必要な場合は有料となることがありますので、あらかじめ販売店にご確認ください。

点検・整備項目については、保証書／点検・整備の記録をご覧ください。

定期点検

いつまでも安全にお乗りいただくため、お買い求めいただいてから 6 か月目以降は、半年ごとに定期点検をお受けください。（定期点検は有料となります。）

定期点検は、お買い求めいただいた販売店に保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、お受けください。消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてご使用いただきますと、大変危険です。

また、定期点検を実施いただかない場合は、保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

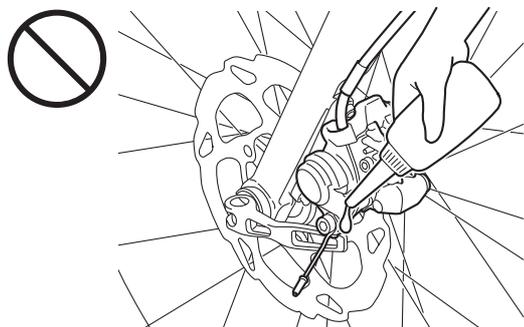
点検・整備項目については、保証書／点検・整備の記録をご覧ください。

警告

- 定期的に販売店で点検を受けてください。
- ブレーキワイヤーは異常がなくても 2 年ごとに交換してください。ブレーキが効かなくなったり、スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

8章 お手入れと保管

お手入れのしかた



警告

ブレーキの制動面などに防錆剤やワックスなどの油脂類を付着させないでください。油脂類が付着するとブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

注意

- YPJは日常防水性を備えていますが、ホース先端をすぼめて圧力のある水を直接かけたり、高圧洗浄機やスチーム洗浄機は使用しないでください。内部に水が入り、故障の原因となることがあります。
- タイヤやブレーキパッドなどのゴム類にワックスを付着させないでください。ひび割れの原因となります。
- YPJによってはツヤ消し塗装（マット塗装）が施されています。ツヤ消し（マット塗装）部分のお手入れでは、以下の点にご注意ください。
 - ・ 洗車ブラシを使用しないでください。塗装面を傷つけることがあります。
 - ・ ワックスを塗布しないでください。塗装面がくすむなど、外観が変化することがあります。
 - ・ コンパウンドを使用しないでください。表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

金属部のお手入れ

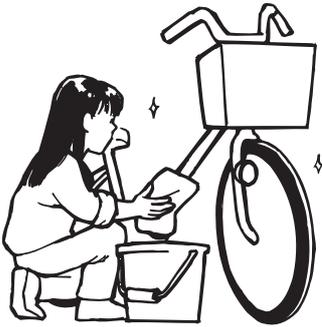
スポークなどの金属部は、防錆剤（ヤマループ 180 防錆潤滑剤）を布に吹き付けてふいてください。



8章 お手入れと保管

フレームなど塗装部のお手入れ

汚れをしっかりと取り除いた後、乾いたタオルに少量のワックスを取ってみがいてください。

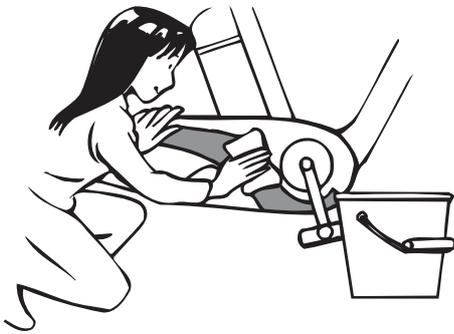


バッテリーや樹脂カバー類のお手入れ

水を含ませ固く絞ったタオルなどでふき取ってください。

注意

ガソリンや灯油、アルカリ性あるいは強酸性のクリーナー、およびその他の溶剤などを付着させないでください。ひび割れなどの原因になります。

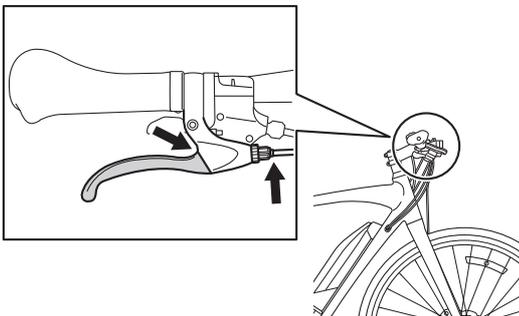


可動部のお手入れ

以下に指定した可動部に少量の機械用油を注油してください。余分な油は乾いた布などでよくふき取ってください。注油する量が多すぎるとほこりを付着させ、故障の原因になることがあります。

左右ブレーキレバーのブレーキワイヤー取り付け部

左右とも注油してください。



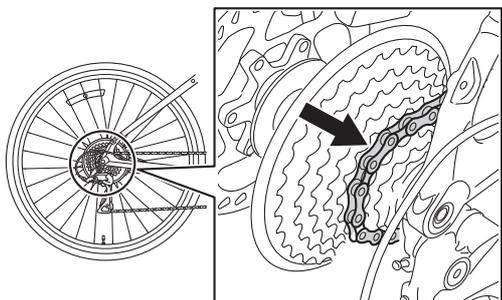
8章 お手入れと保管

チェーン

ペダルを回しながら注油してください。

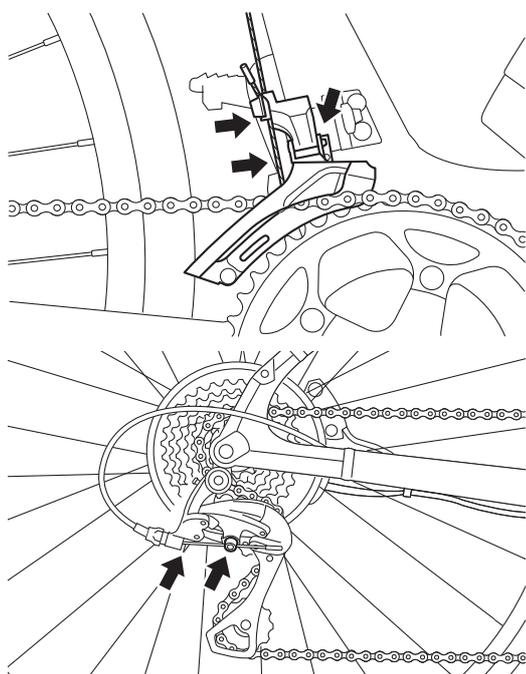
注意

- 自転車チェーン専用の油を使用してください。
- 余分な油は乾いた布などでよくふき取ってください。注油する量が多すぎると走行中に油飛びが発生し、靴や衣類を汚すおそれがあります。



ディレイラー

前後とも注油してください。



保管のしかた

保管に適した場所

以下の保管に適した場所で保管してください。

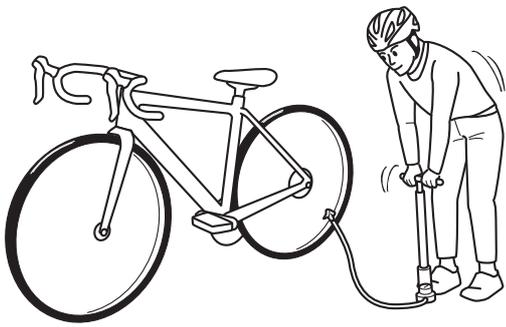
- 平坦で安定が良いところ
- 風通しがよく湿気のないところ
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ



8章 お手入れと保管

保管するときは

- タイヤの傷みを防ぐために、空気を適正空気圧まで入れてください。



最大空気圧

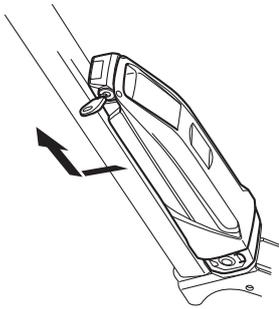
前輪：515kPa (5.1kgf/cm², 5.1bar)

後輪：515kPa (5.1kgf/cm², 5.1bar)

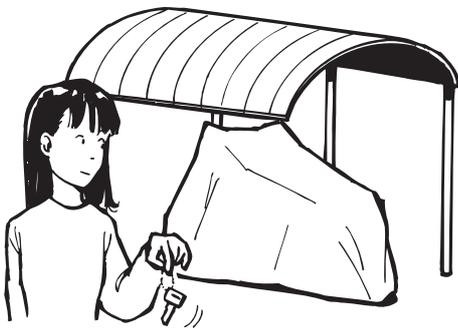
要 点

空気入れは仏式バルブに対応したものを使用してください。

- いたずらや盗難を予防するためにバッテリーを取り外し、ワイヤーロック（別売品）などを施錠してください。ワイヤーロックなどのご購入の際は、販売店にご相談ください。

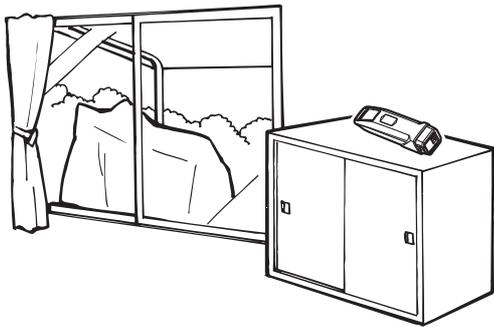


- 屋外ではサイクルカバー（別売アクセサリ品）をかけてください。ご購入の際は、販売店にご相談ください。



8章 お手入れと保管

長期保管（1 か月以上）と長期保管後の再使用



長期保管（1 か月以上）するときは

1 か月以上の長期間にわたり使用しないときは、バッテリーを取り外し、以下の要領で保管してください。

- バッテリー残量を1～2灯の点灯状態にし、屋内の涼しい（15～25℃）、湿気のない場所で保管してください。
- 月に1度はバッテリー残量を確認し、1灯点滅になっているときは10分程度充電してバッテリーの残量が著しく低下しないようにしてください。

要 点

- バッテリーは「満充電（F）」または「空（E）」の状態で放置すると劣化が早まります。
- 自己放電により保管時もわずかずつ放電し、バッテリー残量は低下します。

長期保管後に再使用するときは

6 か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備（有料）をお受けください。

また、使用前にバッテリーを充電してください。

要 点

バッテリーの状態により、充電時間が延びることがあります。

コンパクトマルチファンクションメーター内蔵ボタン電池の交換のしかた

コンパクトマルチファンクションメーターに内蔵するボタン電池は交換することができます。電池を交換する際、コンパクトマルチファンクションメーターを取り外してボタン電池を交換してください。

8章 お手入れと保管

警告

- ボタン電池は誤って飲み込まないように管理し、定められた方法で処理してください。
- 指定のボタン電池をご使用ください。異なるボタン電池を使用すると、破裂・発火するおそれがあります。
- ボタン電池を交換するときは、向きを正しく取り付けてください。プラス（+）、マイナス（-）を逆に取り付けると、破裂、発火するおそれがあります。

注意

- ご自身での交換作業に自信がない方は、販売店にご依頼ください。
- O-リングが電池カバーに組み付けられていることを確認してください。

要点

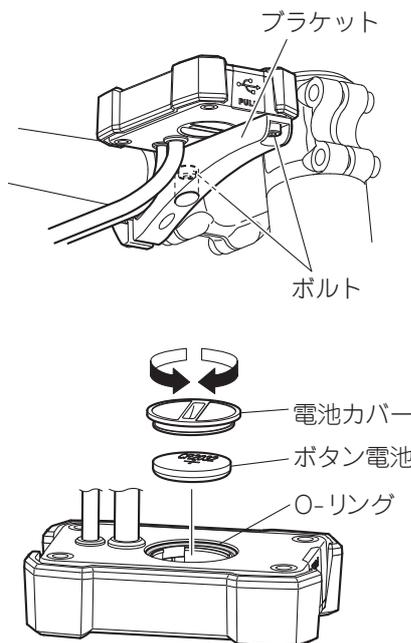
- ボタン電池の交換には工具が必要です。
- バッテリーを取り外してから作業してください。

指定ボタン電池：
リチウムボタン電池
型番：
CR2032

コンパクトマルチファンクションメーター内蔵のボタン電池は、次の方法で交換してください。

- 1 ブラケットの背面にある2本のボルトを外して、コンパクトマルチファンクションメーターを外します
- 2 電池カバーを外します
- 3 古いボタン電池を取り外し、新しいボタン電池のプラス（+）表示が手前になるように取り付けます
- 4 電池カバーを取り付けます
- 5 コンパクトマルチファンクションメーターを元どおりに組み付け、ボルトを締め付けます

ボルト締め付けトルク：
1.5 ~ 2.5N·m (0.15 ~ 0.25kgf·m)



9章 もしもこんなときは

故障かな？と思ったら

以下の表に従ってお調べいただき、直らない場合は販売店にご相談ください。

ペダルが重い・アシストしない

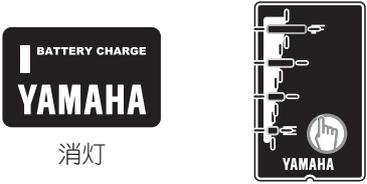
症状および確認内容	対処方法	ページ
コンパクトマルチファンクションメーターの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	28
アシストオフモードになっていませんか？	アシストオフモードの特徴です。アシストは停止しています。 必要に応じて走行モードを切り替えてください。	28
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	48
バッテリー残量メーターは0（ゼロ）の速い点滅をしていませんか？	バッテリーの残量が0（ゼロ）です。充電をしてください。	48 62
タイヤの空気圧が低くありませんか？	仏式バルブ対応の自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	54
コンパクトマルチファンクションメーターの電源を入れてから、停車したまま5分以上ペダルに踏む力をかけない状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	3 28
気温が高いところで使用していませんか？ または走行負荷が大きい走りかた（長い坂道や重い荷物を積載）をしていませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がったための制御で、異常ではありません。温度が下がれば回復します。YPJへの負荷を軽くし、バッテリーやドライブユニットを少し休ませてから再度使用してください。 ⇒通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。	40
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が15～25℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	—
コンパクトマルチファンクションメーターが異常表示や異常点滅をしていませんか？	「コンパクトマルチファンクションメーターが異常表示・異常点滅する」（79ページ） をご参照ください。	79
走行中にコンパクトマルチファンクションメーターの表示が全て消灯した。	バッテリーの接続を確認してください。 バッテリーの接続を確認しても症状が改善されない場合は、パワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。	—
電源ボタンを押しても電源が入らない。	ご使用を止め、販売店で点検・整備をお受けください。	

9章 もしもこんなときは

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
十分に充電が行われていますか？	満充電（F）になるまで充電してください。	52
バッテリーが劣化していませんか？	バッテリーを交換してください。	82
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が15～25℃の屋内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	65 82

充電できない

症状および確認内容	対処方法	ページ
電源プラグはしっかり接続されていますか？ また、バッテリーは確実に接続されていますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	48
充電器の充電ランプは点灯していますか？		
バッテリーのバッテリー残量ランプは点灯していますか？		
充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクタが、汚れていたり、水にぬれていませんか？	充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクタの充電端子を綿棒で清掃してください。清掃後、再度充電してください。	48
充電中に、充電器の充電ランプが消灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプが4灯同時に点滅する。 	故障ではありません。バッテリー内部の温度が過度に高いか、または過度に低くなっていて、充電待ちの状態です。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。	52
バッテリーを充電器に接続したとき、充電器の充電ランプが点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプの1灯目が速い点滅をする。 < 0.2秒間隔 > 	故障ではありません。充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。 例) 長期間保管後の再利用時に充電すると、この状態になる可能性があります。	52

9章 もしもこんなときは

異音・異臭あるいは煙がでる

症状および確認内容	対処方法	ページ
パワーアシスト機構から普段と異なる音や異臭、煙がでる。	ご使用を中止してすぐにコンパクトマルチファンクションメーターの電源を切り、販売店で点検をお受けください。	—
充電器から異音や異臭、煙がでる。	充電を中止してすぐに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	48

充電器が熱い

症状および確認内容	対処方法	ページ
手で触れることができる程度。	充電中は多少の熱（約 40 ～ 70 ℃）を持ちますが、故障ではありません。	—
手で触れることができないほど熱い。	使用を中止してすぐに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	—

バッテリー残量メーター／バッテリー残量ランプが表示しない

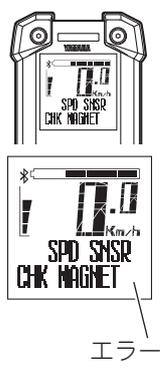
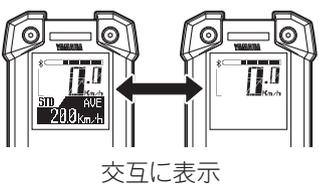
症状および確認内容	対処方法	ページ
アシストはするが、コンパクトマルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターが消灯している。	バッテリーを取り外し、バッテリーの接続端子を乾いた布や綿棒で清掃してください。清掃後、バッテリーを取り付けてください。	48
充電したが、コンパクトマルチファンクションメーターのバッテリー残量メーターが満充電表示しない。	温度が 15 ～ 25 ℃の屋内で、もう一度充電してください。	47
充電終了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが全部点灯しない。	再度、接続しなおして充電してください。 ⇒充電の途中で、電源プラグまたはバッテリーが抜けたおそれがあります。	48
バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが表示しない。	故障ではありません。新品または長期保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても表示しません。充電すると表示します。	—

充電プラグ取り外し後にバッテリー残量ランプが表示し続ける

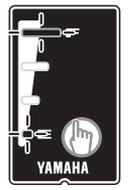
症状および確認内容	対処方法	ページ
充電プラグをバッテリーから外した後に、バッテリーのバッテリー残量ランプが表示し続ける。	充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクタが、汚れていたり、水にぬれている可能性があります。 充電器の充電プラグとバッテリーの充電コネクタの充電端子を綿棒で清掃してください。 清掃後、再度充電してください。	48

9章 もしもこんなときは

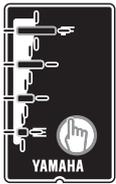
コンパクトマルチファンクションメーターが異常表示・異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
 <p>交互に表示</p> <p>エラー表示</p>	<p>走行モードランプが赤色に点灯してメインの走行表示と“ER”が交互に表示され、機能表示にエラー内容が表示される。</p> <p>エラー信号またはパワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。電源を入れなおしても同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。</p>	39
 <p>エラー表示</p>	<p>走行モードランプが赤色に点灯し、エラー内容が機能表示に表示される。</p> <p>スピードセンサーが正しく信号を検出できない状態が続くと点滅します。しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。</p>	39
 <p>交互に表示</p>	<p>走行モード表示および機能表示部が点滅し、アシストしない。</p> <p>故障ではありません。パワーアシストシステムの動作が正常か確認している状態です。ペダルを踏む力や走行状態によってこの状態になることがあります。システムが正常であることが確認できると通常の状態に戻ります。</p>	—

バッテリー残量ランプが異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
	<p>バッテリーを充電器に接続したとき、またはバッテリー残量表示ボタンを押したとき、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と4灯目が同時に点滅する。</p> <p>保護機能が作動して、バッテリーが使用できない状態になっています。バッテリーを交換してください。</p>	—

9章 もしもこんなときは

症状および確認内容	対処方法	ページ	
	<p>バッテリー残量表示ボタンを押したとき、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と3灯目、2灯目と4灯目が交互に点灯と消灯を繰り返す。</p>	<p>バッテリーと自転車の接続端子の接触不良が考えられます。バッテリーを異常状態から復帰させるため、バッテリーを一旦充電してください。その後、バッテリーを自転車に取り付けてお使いください。</p>	—
	<p>バッテリーを充電器に接続したとき、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と3灯目、2灯目と4灯目が交互に点灯と消灯を繰り返す。</p>	<p>バッテリーと充電器の接続端子の接触不良が考えられます。バッテリーを異常状態から復帰させるため、バッテリーを一旦自転車に取り付けて、コンパクトマルチファンクションメーターの電源ボタンを押し、電源を入れてください。その後、再度バッテリーを充電してください。</p>	—
	<p>バッテリーを充電器に接続したとき、またはバッテリー残量表示ボタンを押したとき、バッテリー残量ランプが約2秒間、4灯同時に速く点滅（約0.1秒間隔）する。</p>	<p>故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。</p>	83

USB 給電ができない

症状および確認内容	対処方法	ページ
コンパクトマルチファンクションメーターの電源は入っていますか？	コンパクトマルチファンクションメーターの電源ボタンを押して、電源をオンにします。	28

9 章 もしもこんなときは

症状および確認内容	対処方法	ページ
USB のバージョンは正しいですか？	USB 2.0 準拠の外部デバイスを使用してください。	33
USB ケーブルの種類は正しいですか？	OTG ケーブルを使用してください。また、ホスト側をコンパクトマルチファンクションメーターに接続します。	
USB ケーブルがしっかり接続されていますか？	USB ケーブルを再接続してください。	
USB ポートまたは USB プラグ端子が汚れたり、湿ったりしていませんか？	コンパクトマルチファンクションメーターと外部デバイスから USB ケーブルを外します。USB ポートと USB プラグ端子の汚れと水気を取り除いてからケーブルを再接続します。	
USB 設定が “COMM” になっていませんか？	「機能設定」(34 ページ) を参照して USB 設定を “PWR SPLY” に設定するか、電源を切り、再度電源を入れてください。	37

無線通信が使用できない

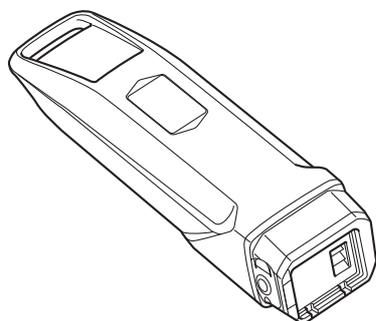
症状および確認内容	対処方法	ページ
コンパクトマルチファンクションメーターと無線通信機器の両方の無線通信設定がオンになっていませんか？	「機能設定」(34 ページ) を参照して通信プロファイルの設定をしてから、無線機器またはアプリケーションソフトウェアの正しい通信プロファイルを設定してください。	34
USB のバージョンは正しいですか？		

外部の無線通信機器の表示の値が正しくない

症状および確認内容	対処方法	ページ
通信プロファイルの設定を変更していませんか？	ペアリングを一旦リセットし、コンパクトマルチファンクションメーターの通信プロファイルを設定してから再度ペアリングをしてください。 ペアリングのリセットおよびペアリングの方法手順については、無線通信機器に付属の取扱説明書をご参照ください。	—

10章 ごぞんじですか？

バッテリーの特性



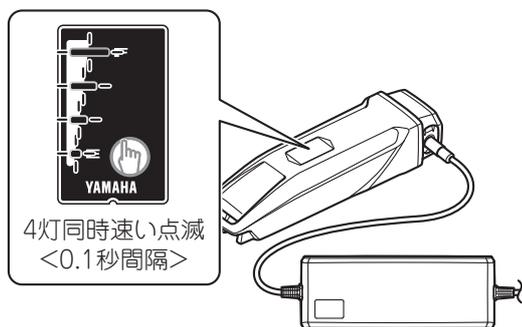
- バッテリーの温度が上がると、アシスト力が低下することがありますが、システム保護制御が作動したためであり故障ではありません。バッテリーの温度が下がると回復します。
- バッテリーの温度が下がると、一充電あたりの走行距離が短くなったりアシスト力が低下することがありますが、リチウムイオンバッテリーの特性であり故障ではありません。温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと、症状を軽減することができます。
- 使用していなくても、わずかずつ放電します。ご使用いただく前に充電することで回復します。

バッテリーの寿命と交換

バッテリー容量は、充放電を繰り返し（700～900サイクル^{*1}）行くと、新品のときの約半分にまで低下します。また、長期間保管しているときも、わずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなり、アシスト力が弱く感じるがあります。充電をしても回復する兆しがなければバッテリーの交換時期です。できるだけ早めにバッテリーを交換してください。なお、この場合の交換は有料となります。

^{*1} 充放電の「1サイクル」とは、満充電にしたバッテリーをバッテリー残量が0（ゼロ）になるまで使用し、再び満充電にする一連の工程をいいます。

10章 ごぞんじですか？



長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安として長期使用をお知らせする機能を備えています。

お知らせ開始年数^{*2} またはお知らせ開始総充電容量^{*3} のいずれかがいっぽうに達すると、約2秒間、バッテリー残量ランプが4灯同時に速く点滅(約0.1秒間隔)してお知らせします。長期使用のお知らせを開始する条件は、以下のとおりです。

お知らせ開始年数^{*2} :

10年

お知らせ開始総充電容量^{*3} :

9400Ah

^{*2} お知らせ開始年数とは、新品時、最初に充電したときからバッテリー内コンピューターが積算を始めて現在までの累積期間です。

^{*3} お知らせ開始総充電容量とは、新品時、最初に充電したときから現在までの充放電を繰り返した結果、充電された容量の総和です。

要 点

- 充電器に接続した場合は、長期使用のお知らせを約2秒間したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。バッテリーの交換については、販売店にご相談ください。

バッテリー交換時のお願い

リチウムイオンバッテリーは、資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)で、使用後の回収および再資源化が義務付けられています。交換したバッテリーの回収は、ご購入の販売店にご依頼ください。



10章 ごぞんじですか？

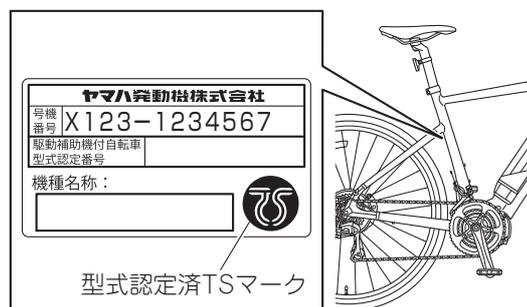
保証制度

お買い上げいただきました YPJ を構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き、保証書に示す条件に従いその部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

型式認定済 TS マーク

型式認定済 TS マークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示することができ、安心してご使用いただけるあかしです。

型式認定済 TS マークは、フレームのシートパイプ部に貼付されています。なお、このマークには、交通傷害保険は付帯していません。



自転車保険加入の勧め

万一の事故に備え、自転車用対人・対物賠償保険のご加入をお勧めします。

詳しくは、お買い求めいただいた販売店または保険会社にご相談ください。

10章 ごぞんじですか？

ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について

ヤマハ〈YPJ〉はお客様のご負担なしで、全車盗難保険が付帯されています。ヤマハ〈YPJ〉の新車をお買い上げいただいたお客様を対象に、ご購入日より3年以内に盗難事故にあわれた場合、所定の自己負担額（「盗難保険の補償内容」を参照ください。）をご負担いただくことで、盗難された車両と同タイプの新車をお求めいただけます。詳細は下記のとおりです。

ご購入後7日以内に、ヤマハ発動機〈YPJ〉公式ページ『製品保証登録（兼盗難保険登録）はこちら』よりご登録ください。ご登録いただかない場合、盗難保険の補償が受けられない場合があります。

ホームページ：[YPJ 保証登録](#) [検索](#)

ホームページでの登録には、お手持ちの保証書綴り「ヤマハ〈電動アシスト自転車〉点検・整備の記録」紙面右下に記された『X』（エックス）から始まるコードが必要です。（例：X0N-F819T-JA）

インターネット環境が無い場合は、製品保証登録票（兼盗難保険登録）ハガキでも登録できます。

※ご登録はホームページまたは専用ハガキのどちらかで結構です。

なお、はがきの料金受取人払い差出有効期限が過ぎている場合でも、切手を貼らずにそのまま投函してください。

なお、保険証書等は発行されませんので、[保証書]を大切に保管してください。盗難事故発生時に必要な書類となります。

ヤマハ〈YPJ〉点検・整備の記録						
点検・整備項目						
点検項目	2か月	6か月	1年	2年	3年	
エンジンオイル						
バッテリー						
タイヤ						
ブレーキ						
チェーン						
ライト						
ベル						
その他						



1. 盗難保険の補償期間

お買い上げの日（保証書記載日）から3年後の応当日の24時まで（「ご継続」はございません）

2. 盗難保険の補償内容

① ヤマハ〈YPJ〉が盗難にあった場合

所定の自己負担額※1をご負担いただくことで、同型の新車を提供します。ただし、部品、別売り付属品は対象外となります。（同型車が販売中止などの場合、同等品になる場合があります。なお、同型車のメーカー希望小売価格が上昇した場合、同等品が盗難された車両のメーカー希望小売価格より高い場合は、差額をご負担いただきます。）

※1 ご購入日より、1年目および2年目…本体価格※2の30%、3年目…本体価格※2の50%

② ヤマハ〈YPJ〉の盗難車が発見された際に、車両に損害が生じていた場合

修理費×87%－所定の自己負担額（ご購入日より、1年目および2年目…本体価格※2の30%、3年目…本体価格※2の50%）をお支払いします。

◆お客様には修理費×13%＋所定の自己負担額（ご購入日より、1年目および2年目…本体価格※2の30%、3年目…本体価格※2の50%）をご負担いただきます。

◆修理費がメーカー希望小売価格（本体）を上回る場合には、上記①と同様の取り扱いとなります。

※2 本体価格…車両にバッテリー・専用充電器を含んだ価格

10章 ごぞんじですか？

3. 盗難事故にあわれた場合の対応（盗難保険手続き要領）

- ① すみやかに最寄りの警察署へ「盗難届」をご提出ください。
- ② お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。
※ 盗難発生の日から 30 日以内にご連絡いただかない場合、保険が適用されないことがありますのでご注意ください。
- ③ 盗難保険手続きに必要な以下の書類を添えて、お買い上げいただいた販売店までご提出ください。

【提出書類】

- 届出警察署発行の盗難証明書、または届出日・届出警察署・盗難日・受理番号を記載した書面
 - 盗難車の保証書（写しでも可）
 - 盗難保険手続き依頼書（販売店からご案内いたします）
 - その他必要書類
- ※ 書類が到着後、調査期間として約 1 ヶ月かかることがありますのでご了承ください。

4. 盗難車の所有権

「盗難車が発見された場合、その所有権は保険会社に帰属すること」に同意いただいた上で、お手続きください。

5. 盗難保険が適用されない主な場合

- ① 提出書類が全てそろわない場合。
- ② 部品等、本体の一部のみに生じた盗難による損害。
- ③ 車両所有者の故意、重大な過失、所有者の親族・使用人などによる盗取。
- ④ 警察が盗難としての届出を受理しない場合。
- ⑤ 地震、風水害、火災、暴動に起因して発生した盗難事故など。
- ⑥ チェーンロック（別売）等盗難抑止策を実施していない場合。

* なお、上記は保険の概要を記載したものであり、実際の保険金支払いに関しては盗難保険普通保険約款および特約条項に従います。

* 本商品は損害保険契約者保護機構の補償制度対象外であり、引受保険会社の破綻時の欠損状況により、保険金が減額、または保険金の支払いが一定期間凍結されることがあります。

10章 ごぞんじですか？

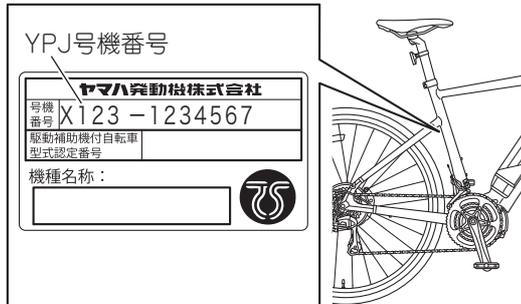
車両情報

おぼえのために裏表紙のスペースにご記入ください。

YPJ 号機番号

YPJ 号機番号は、車両を正確に特定するための情報をコード化したものです。アクセサリ品の購入など販売店にご相談の際には、モデル名と一緒に YPJ 号機番号も正確にお知らせください。

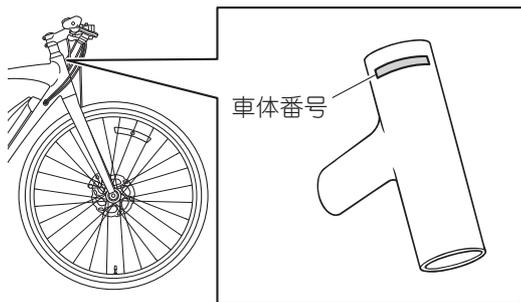
YPJ 号機番号は、フレームのシートパイプ部に貼付される製品ラベルに印字されています。



車体番号

車体番号は、防犯登録に使用します。

車体番号は、フレームのヘッドパイプ部の正面に打刻されています。



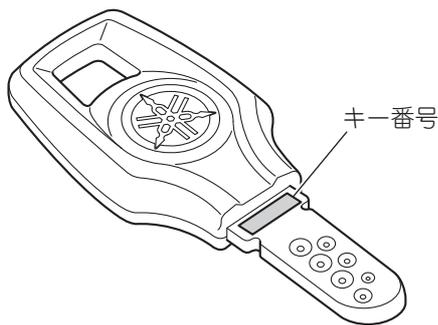
キー番号

キー番号は、スペアキーを作製（有料）するときが必要です。キーの作製については、お買い求めの販売店にご相談ください。

キー番号は、キー本体に打刻されています。

要 点

キーは3本付属していますので、2本は予備として大切に保管してください。



防犯登録番号

防犯登録番号は防犯登録票から転記してください。

10章 ごぞんじですか？

廃棄するときは

YPJを廃棄するときは、お住まいになる地域のルールに従ってください。ご不明の場合は、お買い求めいただいた販売店にご相談ください。

また、リチウムイオンバッテリーは、資源有効利用促進法に基づきリサイクルが義務付けられています。バッテリーを廃棄するときは、お買い求めいただいた販売店へお持ちください。



11章 製品仕様

仕様諸元

		YPJ-EC		
機種名		PW70ECL	PW70ECM	PW70ECS
全長		1,770mm	1,760mm	1,745mm
全幅		590mm		
軸間距離		1,064mm	1,051mm	1,039mm
サドル高		920 ~ 1,090mm	890 ~ 1,000mm	835 ~ 910mm
適応身長		170cm 以上	165cm 以上	154cm 以上
車両重量		19.9kg	19.8kg	19.6kg
タイヤ	サイズ	700 × 35C		
	空気圧 (前)	515kPa (5.1kgf/cm ² , 5.1bar)		
	空気圧 (後)	515kPa (5.1kgf/cm ² , 5.1bar)		
リム形状		HE		
バルブ型式		仏式		
変速機方式		外装変速 18速 (前2速, 後9速)		
駆動方式		チェーン式		
制動装置	前	ディスクブレーキ		
	後	ディスクブレーキ		
充電あたりの走行できる距離		89km ^{*1}		
補助速度範囲	比例補助	0 ~ 10km/h 未満		
	逡減補助	10 ~ 24km/h 未満		
電動機	形式	ブラシレス DC 式		
	定格出力	240W		
補助力制御方式		踏力比例制御方式		
蓄電池	品番・種類	X0N-82110-10・リチウムイオン電池		
	定格電圧	36.0V		
	定格容量	13.2Ah		
	Typ. 容量	13.3Ah		

11 章 製品仕様

充電器	品番	X07-8210C-20
	電源	AC100V (50Hz-60Hz)
	消費電力	190W
	充電時間	約 3.5 時間 ^{*2}
照明装置 (前照灯)		バッテリーランプ

*1 業界新規定の標準パターンで走行したときの弊社データ

バッテリー新品、気温 15 ~ 25 °C、車載重量 65kg (乗員および荷物を合計した重量)、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、ハイモードで走行。

*2 お買い求めいただいた YPJ に装備されているバッテリーと充電器を使用して、バッテリーを残量ランプの 1 灯点滅まで使用したとき、満充電までのおおよその時間です。

11 章 製品仕様

コンパクトマルチファンクションメーター (ワイヤレス通信部分)	通信システム	Bluetooth バージョン 4.0 (Bluetooth Low Energy)
	出力クラス	～ 9.27dBm (e.i.r.p)
	通信範囲	障害物のない状態で見通し距離 約 1m
	周波数帯域	2.4GHz 帯域 (2.400GHz ～ 2.4835GHz)
	変調方式	GFSK
	対応プロファイル	CSCP* ¹ CPP* ²
コンパクトマルチファンクションメーター (製品情報) 	モデル番号	X1M10
	メーカー	ヤマハ発動機株式会社 〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
	商標マーク	

*¹ CSCP (Cycling Speed and Cadence Profile)

車速、およびケイデンスを送信

*² CPP (Cycling Power Profile)

車速、ケイデンスのほか、当システムはペダリングパワー、消費エネルギーを送信

注意

- 本システムの BLE 機能は、全ての BLE 機器との通信を保証するものではありません。
BLE の仕様に準拠している機器であっても、当システムと組み合わせた場合の特性、または通信環境により、接続できなかつたり、動作が異なつたりする場合があります。
- ヤマハ発動機株式会社は、BLE での通信中に発生した情報漏洩に起因するあらゆる損害や損失について、その責任を一切負いません。

12章 索引

あ行

異音・異臭あるいは煙がでる	78
LED 設定	37
横断歩道をわたるときは	
一時停止を忘れずに!	21
お手入れのしかた	70
お乗りになる前の調整	22

か行

外部の無線通信機器の表示の値が	
正しくない	81
型式認定済 TS マーク	84
可動部のお手入れ	71
キー番号	87
機能設定	34
機能表示	30
金属部のお手入れ	70
クイックリリース	44
降車のしかた	68
5種類の「走行モード」を装備しています	2
コンパクトマルチファンクションメーター	27
コンパクトマルチファンクションメーターが	
異常表示・異常点滅する	79
コンパクトマルチファンクションメーター	
内蔵ボタン電池の交換のしかた	74
コンパクトマルチファンクションメーターの	
角度調整	39

さ行

サドルの位置調整について	23
サドルの高さ調整のしかた	22
時刻設定	36
自己診断機能による異常表示	39
自転車の交通ルールを守りましょう	19
自転車保険加入の勧め	84
自動電源オフ機能を備えています	3
車体番号	87
車両情報	87
車輪の組み付けかた	46
車輪の取り外しかた	44
充電あたりの走行できる距離	64
充電器が熱い	78
充電器の取り扱い中 感電や火災を	
防ぐために	15
充電時間	51
充電中 感電や火災を防ぐために	17

充電できない	77
充電に適した環境	47
充電の確認	52
充電のしかた	48
充電プラグ取り外し後に	
バッテリー残量ランプが表示し続ける	78
重要ラベルについて	5
乗車前点検	54
初回点検(2か月目点検)	69
初回点検(2か月目点検)と定期点検	69
スイッチユニット	27
スイッチユニットとコンパクト	
マルチファンクションメーター	25
ストップウォッチの使いかた	34
スピードのだしすぎや	
急ブレーキはやめましょう	21
スピードメーターの表示	29
セレクトボタン	27
前照灯	42
前照灯の「入/切」	33
走行距離が短い	77
走行距離が短くなる環境や使いかた	65
走行モード切替ボタン	27
走行モードの表示と	
走行モードランプの点灯	28

た行

正しい運転姿勢	22
長期使用お知らせ機能	83
長期保管(1か月以上)するとき	74
長期保管(1か月以上)と	
長期保管後の再使用	74
長期保管後に再使用するとき	74
通信状態の表示	29
定期点検	69
電源ボタン	28
電動補助(パワーアシスト)システムにより	
最適なアシスト力が得られます	2
『止まれ』の標識があるところでは…	21
トリプルセンサーシステムを採用しています	3

な行

荷物を積載するには	66
-----------	----

は行

廃棄するとき	88
発進のしかた	67

12章 索引

バッテリー・充電器の保管中	
事故を防ぐために	18
バッテリー交換時のお願い	83
バッテリー残量が無くなっても	
普通の自転車として走行可能です	3
バッテリー残量の確認	62
バッテリー残量メーターの表示	29
バッテリー残量メーターの表示と	
バッテリー残量の目安	62
バッテリー残量メーター／	
バッテリー残量ランプが表示しない	78
バッテリー残量ランプが異常点滅する	79
バッテリー残量ランプの表示と	
バッテリー残量の目安	63
バッテリーの寿命と交換	82
バッテリーの特性	82
バッテリーの取り扱い中 感電や火災を	
防ぐために	14
バッテリーや樹脂カバー類のお手入れ	71
バッテリーロック	40
バッテリーを自転車から取り外した状態で	
充電する場合	49
バッテリーを自転車に取り付けた状態で	
充電する場合	48
パワーメーターの表示	29
ハンドルの高さ調整のしかた	23
ハンドルの取り付け高さ調整	43
ハンドルブラケット	42
ハンドル周り	25
BLE 機器との通信	38
BLE (Bluetooth Low Energy) 設定	36
左側面	24
表示項目の表示／非表示設定	35
ブレーキのかけかた	67
ブレーキレバーの位置調整	68
フレームなど塗装部のお手入れ	71
ペダルが重い・アシストしない	76
変速位置の注意	41
変速レバー	40
防犯登録番号	87
保管するときは	73
保管に適した場所	72
保管のしかた	72
保証制度	84

ま行

右側面	24
無線通信が使用できない	81

や行

ヤマハ〈YPJ〉盗難保険について	85
USB 給電ができない	80
USB 設定	37
USB ポート	33

ら行

リセット	35
------	----

わ行

YPJ 号機番号	87
YPJ ご使用中 けがを防ぐために	10
YPJ ご使用中 転倒や衝突事故を	
防ぐために	6
YPJ のバッテリー	47

バッテリーと充電器販売のご案内

◆ 36V-13.3Ah リチウムイオンバッテリー
注文番号：X0N-82110-10

◆ 充電器
注文番号：X07-8210C-20

仕様変更や共通化などにより、部品番号が変更になる場合があります。
ご購入の際は、販売店にご相談ください。

お買い上げいただいたヤマハ<YPJ>の記録

おぼえのためにご記入ください。
(表示場所は『10章ごぞんじですか?』の「車両情報」をご参照ください。)

Y P J 号 機 番 号 : _____

車 体 番 号 : _____

キ ー 番 号 : _____

防 犯 登 録 番 号 : _____

ヤマハ<YPJ> 最新情報は

<https://www.yamaha-motor.co.jp/pas/ypj/>

ヤマハYPJ 検索

お買い上げいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

お買い上げいただいた販売店



YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500